

第11回 全国ピアスタッフの集い



報告書

日本ピアスタッフ協会

目次

第11回全国ピアスタッフの集いを振り返って	P.3
2023年度を振り返って ~写真いろいろ~	P.4~P.7
全国ピアスタッフの集いのあゆみ	P.8~P.11
1日目 講演会報告	P.12~P.14
ジャネットさんへのQ&A	P.15~P.20
分科会報告	P.21~P.25
アンケート結果のご報告	P.26~P.35
参加者からの感想・メッセージ	P.36~P.38
集い実行委員によるこぼれ話	P.39
実行委員の感想	P.40~P.41
現地実行委員、日本ピアスタッフ協会 役員一覧	P.42
分科会資料集	P.43~71

第11回全国ピアスタッフの集いを振り返って

今年度の全国ピアスタッフの集いは12月上旬の実施でしたが、とても12月の気温とは思えないほどの晴れの日でした。晴天と学内の銀杏が綺麗に色づく中、北は北海道から、南は沖縄までと、本当に全国各地から沢山の方が足をお運びくださいました。改めて心よりお礼申し上げます。

ここ数年の世の中の状況から、顔を合わせての出会い、言葉や気持ちを交える機会を持つことが難しい時期が続きました。けれどもこの2日間、とくに分科会や交流会が行われた2日目には会場の至る所で「はじめまして」「ひさしぶりです」「会いたかったです」などの声が聞こえ、そんな皆さんのお姿をみてとても胸いっぱいであったと共に、こんなこと・あんなことを皆さんと沢山分かちあいたいという気持ちが湧き出てくるような時間でした。顔を合わせるのが難しい時期に、障害福祉サービスにおいては報酬化がなされ、2024年度からは新たに共同生活援助（グループホーム）や自立訓練（生活訓練）にもピアサポート実施加算が新設される見通しです。そのような中でピアスタッフ、ピアサポーターとしての働きをスタートされた方もいるでしょうし、ここ数年でその存在を知り、興味関心を持たれた方もますます増えていることでしょう。

ピアスタッフ・ピアサポーターの多くは、日頃多くのことを感じ、そして模索しながら働いていることと思います。時に嬉しかったことを誰かに伝えたくなったり、どう考えたらよいのだろう？という疑問やモヤモヤを誰かと共有したくなることもあるでしょう。しかしながら、そのようなことを分かち合い、交わり合う機会が多いとははまだまだ言えない状況であると感じています。全国ピアスタッフの集いは年に1回ですが、その年に1回の集いで、他のピアスタッフ・ピアサポーター、関心を寄せて下さる他の職種の皆さんと心を通わせあうことを通じて、明日へのエネルギーに繋がること、そして自分自身が大切にしたいことを思い起こせるような機会になることを願っています。みなさん、きっとまたどこかでお会いしましょうね。

最後に、共に運営をしてくださった現地実行委員の皆様、今年度の集いを東京で開催させてくださった日本ピアスタッフ協会の皆様に心よりお礼申し上げます。

第11回全国ピアスタッフの集い実行委員長
佐々木 理恵

2012年11月30日～12月1日に「第1回全国ピアスタッフの集い（仮称）」をボランティア含めて総勢約80名が集い、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催いたしました。多くの方が宿泊し、会議室を貸し切って夜通し対話を重ねました。それから10年。東京での開催はこのとき以来、11年ぶりとなります。今回の抄録集にこれまでの集いのテーマや分科会タイトルの一覧があります。テーマからピアスタッフをめぐる時代背景、現状と課題の変遷が見えてきます。今回のテーマは「ピアアドボカシー」。坂本先生のご尽力のもと、初めて海外からの招聘講演となりました。

10年を経てピアスタッフも、ピアサポート活動も、またピアサポートを語る人も格段に増えましたが、やはり、まだまだ希少（と言っていいと思います）なピアスタッフ、ピアサポーター、またピアサポートに関心のあふる人々が集まり、久しぶりに会える喜びはひとしおです。巷ではなかなか通じ合わないピアサポート界隈の言葉が共通言語として通じあふ感動があります。苦労も多いですが、やめられない、クセになるなんとも言えないエネルギーが沸き起こります。一方で、課題も成熟してきて、多様に育っているように思います。

2021年4月から障害福祉サービス事業への加算が開始し、これからさまざまな課題が一人ひとりのピアスタッフや雇用する職場、同僚の皆さまが感じることと思います。ピアサポートの価値やリカバリー志向という方向性を見据えながら、皆さんと共有し、対話を重ねることで、乗り越える方が示され、その先には、日本のピアサポートのありようが見えてくると信じます。改めて今回参加された皆様、分科会等を担当してくださった登壇者、運営、お手伝いくださったボランティアの皆様、日本ピアスタッフ協会の皆様、そして何よりも、今回の実行委員長佐々木さんはじめ実行委員会の皆さまに心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。また、次回の集いでお会いできることを楽しみにしています。

日本ピアスタッフ協会 顧問
相川 章子

2023年度を振り返って ～写真いろいろ～

～8月にはフィリス・ソロモンさんの招聘講演会を行いました～



12月の集いに向けて、実行委員も準備に関わりました



動画配信にもチャレンジしました



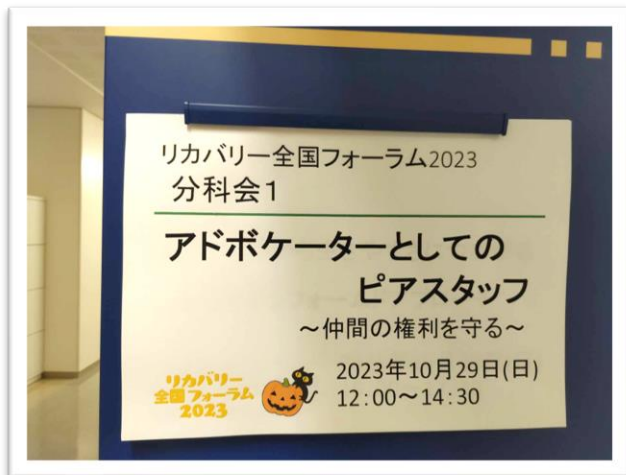
ソロモンさんのご講演も充実していました



参加下さった方同士の
沢山の交流もみられました

2023年度を振り返って ～写真いろいろ～

～10月にはコンボさん主催のリカバリー全国フォーラムの
分科会も日本ピアスタッフ協会として行いました～



12月の集いに向けての告知も
この時期、みんなで頑張りました♪

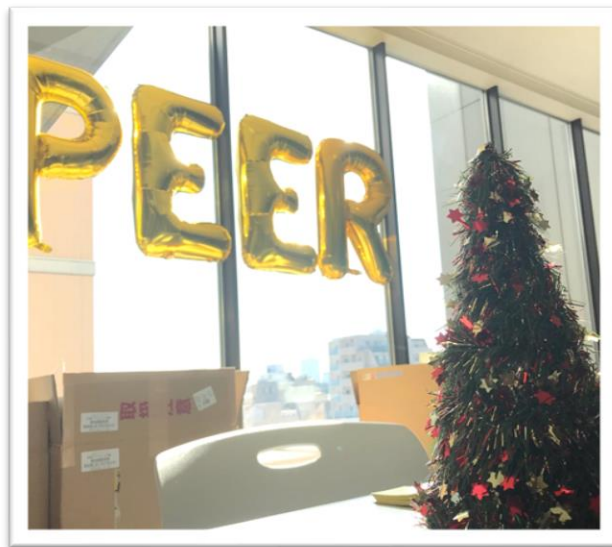


2023年度を振り返って ~写真いろいろ~

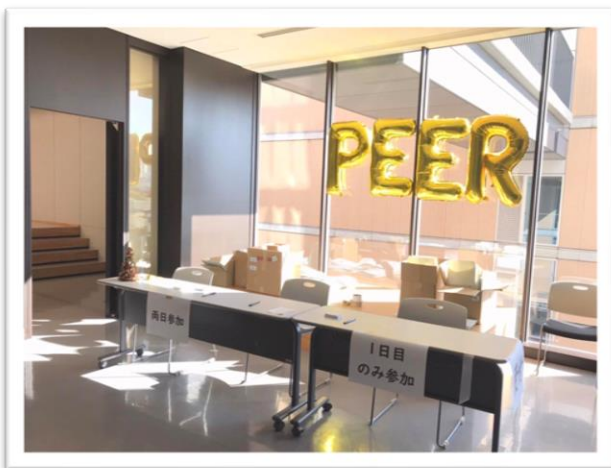
~集い当日の準備や様子の写真いろいろ~



12月にも関わらず
紅葉が素晴らしかったです



実行委員の方が素敵なツリーを
持ってきてくださいました



1日目の受付の様子



今年の抄録と資料集



講演をしてくださったジャネットさんが沢山の
資料(無料配布)をお持ちくださいました



今年は金剛出版さんとコンボさん
にも出店頂きました

2023年度を振り返って ～写真いろいろ～

～集い当日の準備や様子の写真いろいろ～



実行委員さんが司会をしてくださいました



オーストラリアからジャネット・マアさんが
来日講演してくださいました



1日目の講演会の様子です



クロージングの司会は日本ピアスタッフ協会
の役員さんがしてくださいました



今回の集い実行委員一同です

- 2日間で延べ200人以上の方にご参集頂きました。
(運営スタッフいれると250名くらいでしょうか)
- 加えて、後日の動画配信参加も約280名の方からお申込みを頂きました。

みなさまのご参加、改めてお礼申し上げます。

全国ピアスタッフの集いのあゆみ

	実施年度	実施日	開催地	大会テーマ
第1回	2012年度	11/30~12/1	東京都 国立オリンピック記念 青少年総合センター	全国ピアスタッフの集い(仮称) としての実施
第2回	2013年度	12/14~15	埼玉県 聖学院大学	特にテーマを設けずの実施
第3回	2014年度	12/13~14	埼玉県 聖学院大学	新たなポジションの確立にむけて ~ピアだからこそできること~
第4回	2015年度	11/14~15	宮城県 東北福祉大学	私たちがピアスタッフに魅せられる理由(わけ)
第5回	2016年度	11/12~13	神奈川県 神奈川県立保健福祉大学	ピアスタッフは誰のため? ~いろいろな視点からみる"今"と"これから"~
第6回	2017年度	12/9~10	埼玉県 聖学院大学	ピアスタッフは何のため? ~ピアスタッフの幻想を越えて~
第7回	2018年度	10/28 (1日開催)	大阪府 大阪人間科学大学	ピアスタッフは支援者か? ~期待と現実~
第8回	2019年度	2/29~3/1	北海道 北星学園大学(※中止)	ピアサポートを活かして働く ~理想と現実~
第9回	2021年度	1/30 (1日開催)	オンライン	変革と協働 ~共にイキイキと働き続けるために~
第10回	2022年度	12/3~4	福岡県 西南学院大学	何が楽しいのか?本当に楽しいのか? ~これからのピアスタッフとは~

ピアスタッフの集いの誕生!
聖学院大学の相川さん
のご研究が、本会誕生の
きっかけとなっています。

全国ピアスタッフの集いのあゆみ

分科会

※この時は分科会という形ではなく、テーマに分かれてグループ協議とした。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアスタッフと専門職との協働 2. プロの支援者として、資格化について 3. ピアスタッフとしての苦労・工夫・やりがい | <ol style="list-style-type: none"> 4. 働きやすい環境づくり 5. ピアスタッフならではの仕事・利用者の期待 6. 交流・つながり 等 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアとは？ピアスタッフとは？ 2. 私の今使っている言葉→カタカナ言葉の意味を考えよう
リカバリ？ピアサポート？ 3. ピアスタッフの資格制度 4. ピアスタッフの今とこれから 5. WRAP ファシリテーターの集い | <ol style="list-style-type: none"> 6. 就労 7. 住居→住む場におけるピアの意義 8. アウトリーチ（アウトリーチ推進事業・ACT チーム等） 9. 地域移行・定着支援事業 10. 地域活動センター I 型・相談支援 |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアスタッフがひとり職場で働きつづけるために 2. 働き続けるための自分との上手な付き合い方、職場との付き合い方 3. 長期入院者のための地域移行 4. ピアスタッフの雇用とニーズ 5. ピアスタッフの現状と課題 ～研修・資格化・専門家との協働などなど～ | <ol style="list-style-type: none"> 6. セルフヘルプグループ 7. ピアスタッフの今とこれから 8. これからピアスタッフを目指す人のための集い 9. ピアスタッフと恋愛・結婚 10. WRAPの集い |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 言わせてやらせてピアスタッフ ～今とこれから～ 2. これからピアスタッフを目指す人のための集い 3. これからピアスタッフが地域に根ざすためには～私の街のピア文化～（仙台ご当地企画） 4. 働き続けるために出来ること | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアスタッフとおカネ 2. ピアスタッフの立ち位置 3. 1年目ピアスタッフが語る
「なってみて初めて分かったピアスタッフの光と影」 4. 実践報告会 ～ピアスタッフの持つ対人援助力～ 5. 『私の実践記録』退院支援を含めた精神科医療・福祉の関わりの中で 6. 地域移行・定着支援”の視点
～ピアスタッフと専門職との協働について考える～ 7. ピアスタッフとバウンダリー ～ピアスタッフとして、人として～ 8. 働き続けるために | <ol style="list-style-type: none"> 9. ～かながわのピア活動ってどうなの？～ 10. ピアスタッフという言葉の前で、ピアサポートを考える
～IPS ワークショップ～ 11. 「ぶるすあるは」×「伝えるカード」をつくる会～伝えたい下手さん大集合～ 12. 利用者からみたピアスタッフ 13. ピアスタッフと名乗ることへの葛藤とその向こう側 14. 下げちゃえ、ピアスタッフ雇用のハードル
～ピアスタッフと働きたい人集まれ！～ 15. ピアスタッフと専門職が共に働くことについて～(株)MARSの取り組み～ |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 雇用主の心の叫び話しませんか？～明るい未来を考えよう～ 2. ピアスタッフのキャリアパスを考える～海外の取り組みを参考に～ 3. 地域移行・地域定着支援～ピアスタッフと専門職の連携～ 4. 埼玉の当事者活動が育むピア文化 5. 「経験を活かすとは？」 | <ol style="list-style-type: none"> 6. ピアスタッフ権利擁護と倫理綱領 7. ピアスタッフのクライシス 8. ピアスタッフのスーパービジョン 9. ピアスタッフの雇用の現状・業務内容・人材育成 10. ピアと学び |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域移行とピアヘルパー～退促発祥の地大阪から今語る～ 2. 私たちのワーク・ライフ・バランス～ピアが元気であり続けるために～ 3. ピアスタッフと専門職は対等な支援者か 4. ～未熟から成熟へ～育ち合う関係づくりのためのスーパービジョン 5. ピアスタッフのメリット・デメリット | |

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ピアサポート体制整備加算の現状とこれから 2. 一緒に考えよう！ピアスタッフの価値と役割 ～倫理綱領と業務指針に向けて～ | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. リカバリーセンターにおけるピアサポートについて 2. ピアサポーターの養成と可能性 ～2年半の振り返りと今後の展望～ 3. ピアスタッフの本音 4. ひとぷらと一緒に、ピアスタッフの理想の働き方について考えよう！ 5. アウトリーチ（訪問看護）におけるピアサポートの力 | <ol style="list-style-type: none"> 6. ピアスタッフの固有の価値と役割を考える
～ピアスタッフの倫理綱領と業務指針～ 7. ピアスタッフが持つバトン
精神障害当事者活動の歴史から考える 8. 愛する力を磨くピア学習プログラム 9. WRAPの紹介 |

第11回全国ピアスタッフの集い

PEER

2023

何度でも仲間にあえる・つながれる
～共感の先にみえてくるもの～

2023年 12月9日(土)～10日(日) 大正大学(東京都豊島区西巣鴨)

●目的

全国のピアスタッフ(当事者スタッフ・ピアサポーター等含む)が一堂に会し、学び、交流し、情報交換をし合うことを目的とする。加えて、ピアスタッフに関心のある当事者、専門職者、行政等も交えて、日本のピアスタッフの現状と今後について考える機会をつくることを目的とする。

●対象

ピアスタッフ(ピアサポーター、当事者スタッフ等含む)および関心のある方(これからピアスタッフになりたいと考えている当事者、共に働いている専門職者、これから雇用しようとする専門職者、導入したいと考えている行政職者等)

●プログラム

【1日目】(12月9日)

12:00- 受付開始(5号館)
12:45- 開会式
13:00- 第1部 講演会
(途中休憩あり)
15:20- 第2部
日本のピアスタッフ等
による話題提供
16:20 閉会・終了

【2日目】(12月10日)

11:30- 受付開始(1号館)
12:15- 全体会 (1号館)
12:40- 分科会への移動
13:00- 分科会(1号館、2号館)
15:00- 休憩
15:30- クロージング(1号館)
16:00 閉会・終了

●1日目の講演会について

(科研費プロジェクト公開講演会)

※詳細は別チラシ参照



【講師】

ジャネット・マアー氏

今年度の全国ピアスタッフの集いでは、オーストラリアにおけるピアアドボカシー活動をけん引してこられたジャネット・マアーさんから、ピアが行うアドボカシーを学ぶ機会としてご講演頂けることとなりました。後半には、日本のピアスタッフ等からの話題提供も予定しています。

※当日は通訳(工藤真士、宮本有紀)が付きまます。

第2部
話題提供

矢部 滋也 氏 ((一社)北海道ピアサポート協会)
中田 健士 氏 (株式会社 MARS)
坂本 智代枝 氏 (大正大学) ※コーディネーター

本講演会はJSPS科研費 坂本智代枝(20K02247)、栄セッコ(JP23K01865)の助成を受けています。

●参加費

		1日目 のみ (12/9)	2日目 のみ (12/10)	両日 参加 (12/9&10)
会場 参加	当事者 学生	無料	¥2,500	¥2,500
	一般	無料	¥3,000	¥3,000
後日動画配信		無料	なし	なし

※無料枠の場合であってもお申込みが必要です。
※社会人学生は学生料金では無く、一般料金となります。
※お申込みをされた全員に、後日動画配信(1日目の講演会部分のみ)のご案内をお送りします。ご案内には2週間程度お時間をいただく予定です。

●お申込み

1. 以下のURLまたはQRにアクセスする

<https://peer120910.peatix.com>

2. 必要事項を入力する

3. チケットを選択し送信する

※ただし、定員に達し次第
チケット販売は終了となります。



●アクセス (MAPは裏面参照)

- ①都営地下鉄三田線… 西巣鴨駅下車A3出口 徒歩2分
 - ②JR埼京線…板橋駅東口下車 徒歩10分、
 - ③都電荒川線…庚申塚駅又は新庚申塚駅下車 徒歩7分
- ※お車でのご来場はお控えください(駐車場はありません)

●ご協力およびお願い事項

※当日の会場参加はできません。事前にチケットをご購入下さい。
※2日目の各分科会の定員は20名～30名程度で考えています。
(部屋の大きさによって分科会の定員が多少違います)
※2日目の全体会およびクロージングは、お部屋の大きさの都合により人数を制限させて頂く場合があります。予めご承知おきください。
※当日、37.5℃以上の発熱や風邪症状がある場合は来場をお控え下さいますようお願い申し上げます。

PEER
協会

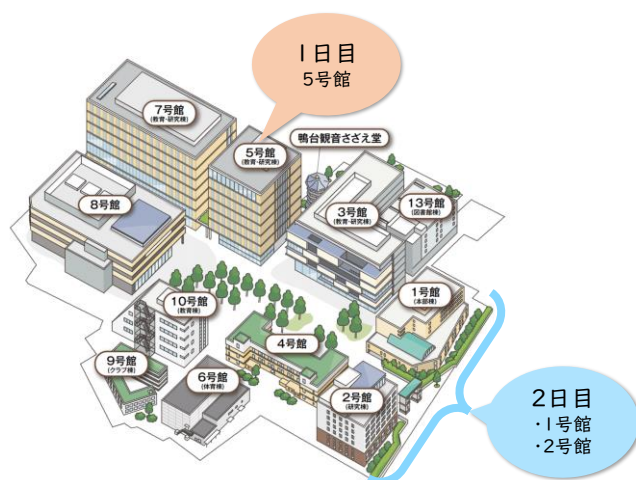
【主催】日本ピアスタッフ協会
【運営】第11回全国ピアスタッフの集い実行委員会
【協力】大正大学 坂本智代枝

【後援】金剛出版
認定NPO法人 地域精神保健福祉機構コンポ
一般社団法人 北海道ピアサポート協会
ピアスタッフについて知ってこ!ぶろじえくと

アクセスMAP



構内図



分科会紹介

分科会 1	<p>「期待」と向き合い働き続けるためのセルフケア ～時には休職してもいいじゃん～</p> <p>利用者さんからの期待、職場からの期待、求められる役割や寄せられる期待…。応えたいけれど応えられないピアスタッフの葛藤。そんなときのセルフケアって何だろう？皆さんは、周囲から寄せられる「期待」にどう向き合っていますか？ この分科会では、セルフケアの一つとして、休職を選んだ方にお話を伺います。ピアスタッフとして働いている人には、日々の思いや経験の分かち合いの場として。ピアスタッフとして働きたい人には、大変さや対処法などの、実際を知る場として。同僚や上司といった専門職などの人には、一緒に働き続ける方策を考える場として参加してもらえたらと思います。</p> <p>山田裕貴(所沢市保健センター)、瀬戸麻貴(社会福祉法人成和会)、藤原由紀、高橋哲(埼玉県済生会鴻巣病院、生活支援センター夢の実)</p>
分科会 2	<p>ピアスタッフと専門職 ～「協働」ってなんだろう？～</p> <p>この分科会ではピアサポーターと専門職の「協働」について、皆さんと意見交換する場に出来たらと思っています。前半では実際に「協働」に取り組んでいる方からお話を頂き、後半では参加者の皆さんと一緒にグループワークをする予定です。「協働」に対して手応えを感じている方、難しさを感じている方、これから実践していきたい方など… 福祉・医療・行政などのさまざまな現場・状況で取り組まれているピアサポーターと専門職の皆さんの実体験や思う事をざっばらんにお話し頂けたら嬉しいです。</p> <p>斎藤俊生、林友里(中野区地域生活支援センターせせらぎ)、清田智也、長嶋美紀(渋谷区地域活動支援センターふれあい)、里村嘉弘(東京大学 大学院医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター)</p>
分科会 3	<p>なりたてピアスタッフの純真な気持ちを語る</p> <p>入職2～3年目までのなりたてピアスタッフ/ピアサポーターが職場で感じる疑問や苦勞、楽しさと面白さ、ピアスタッフになった経緯、なって感じる事、職場でのコミュニケーションのやり方(支援する/される関係から同僚になった時)など、なりたてならではの視点で語ります。ピアスタッフに興味がある方、入職して間もない方必見の情報をお送りします。</p> <p>天田由紀子(HALO相談支援センター)、高田晴江(相談支援センターくらふと)、石田貴紀(社会福祉法人トラムあらかわ、NPO法人トモニ、東大病院)、石村徹(支援センターアゼリア)、金原明子(東大病院精神神経科)</p>
分科会 4	<p>自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること ～日常の身近な権利について考えよう～</p> <p>アドボカシーとはどのようなことでしょうか？ 自分の権利を知ること、意思表示や自分の意志を主張すること、ピアの意思表示や主張をサポートすることと言われています。気にはなるけど何をすればいいの？ 日頃のピアスタッフの実践の中に仲間の権利を護る(ピアアドボカシー)実践が行われていること、日頃の活動の中で自身の権利を護ることと仲間の権利を護ることについて考える機会としたいと思います。ピアスタッフが日頃の業務で直面する、身近な権利についてのどのように考えればよいのか、アドボカシーとはどのようにすればよいのかについて、話題提供を踏まえてみんなで語り合いたいと思います。</p> <p>櫻田なつみ((株)MARS 就労支援事業所co opus)、田村大幸(就労移行支援事業所こねくと)、西村聡彦(日本社会事業大学大学院)、黒木紀子(国分寺すずかけ心療クリニック)、坂本智代枝(大正大学)</p>
分科会 5	<p>ピアスタッフの価値と役割を考える ～ピアスタッフが大切にしたいこと～</p> <p>一昨年(2022年)の日本ピアスタッフ協会主催の全国ピアスタッフの集いにおける分科会にてピアスタッフの価値と倫理について、皆様と共有しました。皆様と共有できたことでそれをもとに、研究会(「ピアスタッフの価値と役割を考える会」)を立ち上げ、日本ピアスタッフ協会の協力のもとで、検討を重ね12項目の「ピアスタッフ大切にしたいこと」を導き出しました。今年度は、ピアスタッフの価値と役割を深めるために、「ピアスタッフ大切にしたいこと」について皆様のご意見をお伺い、さらにより良いものになりたいと考え、この分科会を企画しました。</p> <p>矢部滋也(北海道ピアサポート協会)、眞嶋栄(木村病院)、関口明彦(ライフサポートセンターMEW)、相川章子(聖学院大学)、鶴領太郎(静岡福祉大学)、荒井浩道(駒澤大学)、横山和樹(札幌医科大学)、濱田由紀(東京女子医科大学)</p>

1日目 講演会報告

12月9日は、1975年に「障害者の権利宣言」が国連総会で採択された日です。

さらに、12月10日は1948年に国連総会が「世界人権宣言」を採択した日として、「世界人権デー」とされています。そこで、オーストラリアはもとより、世界的にピアとしてアドボカシー運動をされてきたジャネット・マアール(Janet Meagher)さんを日本に招聘し、科研費による公開講演会を2023年12月9日13:00~16:30に大正大学531教室にて開催し、200名の参加者がありました。

日本において2000年代から、ピアスタッフの活動が増え、精神障害者領域では日本ピアスタッフ協会や一般社団法人日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構等が全国的に組織化されてきました。そして、2021年度の障害福祉サービス等報酬改定によって、3障害(難病を含む)ピアサポート体制加算およびピアサポート実施加算の報酬化を受けて、全国的に障害のある人のピアサポーター養成研修が実施され、多くのピアスタッフの活動がさらに全国的にも拡がりつつあります。そのような背景のなか2023年度には、精神保健福祉法の改正に伴い、精神科病院への入院者訪問支援事業が創設されました。

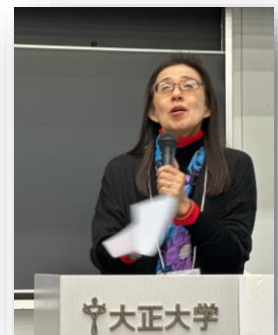
精神科病院に入院している当事者を訪問し、本人の話を丁寧に聴き、入院中の生活相談に応じ、必要な情報提供を行うこととされています。これは、当事者のエンパワメントと権利を守ることを目的としたアドボカシーです。

今回の公開講演会では、オーストラリアにおけるピアスタッフの活動について、ジャネット・マアールさんの経験と実践と国際的な研究活動を踏まえて「アドボカシー・リカバリー・ピアワーク」と題して講演していただきました。

アドボカシーとは、自分の権利を知ること、意思表示及び意思表明、意思を主張すること、他者の意思表示や意思表明、権利の主張をサポートすること、代弁することだと言われています。これは、精神保健医療福祉におけるピアスタッフの人たちも、日常的に実践している、実践が求められています。ピア(当事者)が行うアドボカシーは身近な自身の権利を学ぶことから始まります。

アドボカシーとは何か、リカバリーとは何か、ピアスタッフの活動のなかでどのようにアドボカシーを実践していけばよいのか、協働する専門職はピアによるアドボカシーができる環境をどのように整備すればよいのかについて、講義及び議論が深まりました。そのなかでも、ジャネットさんの自身のリカバリーストーリーを踏まえて、アドボカシーの概念整理、セルフアドボカシーの意義や個人のアドボカシー及びシステムアドボカシーについて、概説していただきました。それをもとにリカバリーとピアワークの関連とオーストラリアにおけるピアワークの概念とピアサポートとの違いも整理されました。

さらに、ピアワークの根幹には「セルフアドボカシーの促進」と「生きられた経験を共有、活用する」「リカバリーマインド」を育むために意図的に実行することが示されました



1日目 講演会報告

何よりも、参加者にインパクトがあったのは、オーストラリアにおけるピアワークの多様なタイプと地位や専門性が確立されていることでした。求人も多く、看護師などと同様の初任給であり、役割もプロの仕事であり、専門家としての役割であることの詳細が示されていました。

第2部では、参加者からの質問票が50件ほど寄せられ、丁寧に回答していただいた。日本の現状として、ピアスタッフである矢部滋也さん(一般社団法人ピアサポート協会)とピアスタッフを多く雇用している中田健士さん(株式会社MARS)の報告と質問に対して、助言者としてコメントが寄せられました。

特に、ジャネットさんからはアドボカシーの出発点は「怒り」いわゆる精神保健システムに対する改善への要求が出発点としてあること、それも仲間を募って組織化すること、リーダーシップを当事者がとること等、強調されました。尚、事後アンケートは106名の回答が得られました。最後になりましたが、第11回ピアスタッフの集い実行委員会及びピアスタッフ協会の協力に感謝いたします。

(坂本 智代枝)

Janet Meagher (ジャネット・マア)さんの講演 「精神保健におけるアドボカシー・リカバリー・ピアワーク」をお聞きして

アドボカシーという言葉に、以前の私は少し強い言葉、難しい言葉という印象を持っており、そのような言葉の印象から、今回の講演者であるジャネットさんのことも、強めの人という勝手なイメージを持って居ました。しかし、ジャネットさんは、とても優しい方でした。私がジャネットさんのご講演をお聞きして気づいたことはたくさんあるのですが、ここでは特に権利擁護(アドボカシー)についてとジャネットさんから感じたことについて述べます。

1. 権利擁護について

ジャネットさんのご講演をお聞きするまで、権利擁護、というのが私の中ではごちゃごちゃしてしまっていたのですが、私なりに理解したこととしては、権利擁護と言っても、いくつか種類があって、

- ①自分の権利擁護(セルフアドボカシー)：
自分の権利を守ったり、自分の必要としていることへの対応をよりよくするためにする活動
- ②個人に対する権利擁護(個別のアドボカシー)：
一人一人の人が自身の権利を守ったり、自分の必要としている対応を得ることができるよう支援する
- ③全体としての権利擁護(システムアドボカシー)：
不平等や、誰かの権利が侵害されやすいような構造や状況を変えるためにする活動ということなのだ、とわかりました。



1日目 講演会報告

特に私の心に残っているのは、権利擁護とは、誰かのためにほかの人が何かをすることではなくて、その人自身が自分のためにすることを支えることなのだ、ということです(上記でいうと②のところ)。これまで、誰かの権利を擁護するということを考えたときには、その人の代わりに何かをすることを想像してしまっていたように思います。しかし、その人の代わりに何かをするのではなくて、その人がその人自身のために何かをすることを支えることが権利擁護だ、とジャネットさんは語っていました。

そしてそれと同時に、自分の権利を守ったり(①)、誰かが自身の権利を守るのを支える(②)だけでなく、みんなの権利がまもられやすい構造にしていく、そんな社会へと変えていく活動(上記でいうと③)も、権利擁護なのだということも、これまでの自分は意識できていなかったように思います。

権利擁護とは、その人が自分自身の権利を守るための活動ができるように支えること、そして誰か個人のためだけでなく、社会の中の構造や状況、精神科医療を変えていくための活動をするのも、権利擁護なのだ、と、今回ジャネットさんの講演をお聞きしてわかり、自分の中で権利擁護の輪郭が少しかめてきた気がします。



2. ジャネットさんから感じたこと

ジャネットさんは、情熱(パッション)と知識と知恵と自由な心、そのどれが欠けてもダメなんだとおっしゃっていたと思います。情熱を持って、賢く、自由に、と。それが、まさにジャネットさんのありようだなとも感じましたし、あのジャネットさんの皆を包むような優しさは、情熱を持ち、いろいろなことを考えながら、人々の思いを聞き、人々と共に泣いたり怒ったり笑ったりして活動していく過程で深められていったのではないかと感じました。

ジャネットさんからは、優しさと共に、治療やケアの中で誰も傷ついてはいけないというメッセージを受け取りました。治療やケアは、その人がより良い状態にいるためになされることであり、誰かが傷つくことなんて本来あるはずがないことなのに、しかし現実には、治療やケアの中で傷ついてしまうことが起きている日本の現状を強く意識させられ、このままこれを許容してはいけない、自分にももっとできることがあるのではと感じました。

今回はジャネットさんのお話を講演と言う形でお聞きしましたが、今度是对話のような形で質問しながら、ゆっくりお話をお聞きできたら、さらに深い気づきが生まれ、具体的にどのように行動していったら良いかのヒントも得られそうだなと思いました。

ジャネットさんにまたいらしていただいてそんな時間を持てたらなと思うと同時に、ジャネットさんとそのような場をしばらく持たないとしても、日本の中でもこういった対話をする事ができるのではとも思いました。ジャネットさんのお話もまたぜひ伺いたいですし、皆さんといろいろなことを語り合ったり一緒に考えたりしたいと思われた時間でした。どうもありがとうございました。

(宮本有紀)



ジャネットさんへのQ&A

講演会の中ではジャネットさんへの質疑に十分な時間が取れませんでした。

みなさん
沢山の質問
ありがとう

講演終了後に、ジャネットさんがお時間を作って下さり、皆さんからのご質問にご回答くださいました。その回答を以下に記します。

※質問内容が似たものについては、質問をひとつにまとめさせて頂きました。

※ジャネットさんへの聞き取りと記録は実行委員が行いました。



1	<p>Q いまの日本に必要なことはなんだと思いますか？</p> <p>A ピアワークのコンセプトは世界的に発展している。主にアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、そしてヨーロッパ。それらの国はお互いから学び合ったので、ピアワークのコンセプトがより洗練されて発展していった。例えばニュージーランドで作ったピアワーカーのコアコンピテンシーが他の国でベースとして取り入れられた。そういうアドバンテージがないので日本は不利な部分があるのかもしれない。</p> <p>ただ日本に利点があるとしたら、他のモデルを見ることができるので、他のよいものをつまむことはできることだと思う。私がみていて感じるのは国レベルの基準がとても必要なのだということ。ピアワークの原則、倫理が国レベルで必要だと思う。今の日本は、ちょっとずつ良い(実践をしている)ところが各地に点在している状況なのだと思う。</p>
2	<p>Q 自分がアドボカシーしたことに自信をもてるようになるためのコツはありますか？</p> <p>A 人に自信をもってどういったらいいんだろう。うまくいっていないことを乗り越えるのには、知識とパッションが役立つ。アドボケイトしようとするのが、成功。そのこと自体が成功。うまく出来ていないと思うことそのものが、セルフアドボカシーをするサインなのだと思う。なので言わないと…と思うとき、わかってもらわないと、と思うときにセルフアドボカシーをするサイン。</p> <p>パッションだけだと十分ではなくて、知識も必要。たとえば、一緒にコーヒーをのみながら話すことから始める。そこからまた交流して、質問をお互いにして…、つながる。引っ込み思案にならずにつながっていくこと。ピア同士とは限らない。ピアと専門職でもよい。私の本を活用して頂くこともひとつ。本の一部分を読んでみんなで意見交換をするのもいいかも。そういうことをやっていくことで理解が積み重なっていくと思う。</p>
3	<p>Q どのようなきっかけや経験がジャネットさんの活動につながっているのですか？</p> <p>A 病院でずっと入院していた時に虐待が横行していた。治療とかケアという名の下に虐待が行われていた。それに対して凄く怒りがあった。それは正しい怒りだったと思う。そのことを自分の精神科医に相談した時にあなたがパワーの源になるんだよ、あなたは賢いからできるよ、と言われた。医師や看護師が資格をとるプロセスでの学びが間違っている。</p> <p>治療の中でだれも傷つけられてはいけないんだということが自分のパッションになっている。自分はもろい患者と思ってしまっていたけれども、相談した医師(彼女)がとても力になってくれた。自分には力がないと思っていたけれど、あなたには知性や力があるよと言ってくれた。最初は怖かったけれど。40年経ってもアドボカシーする時は怖いし、ストレスもかかるけれども、そういったストレスは好き。</p>

ジャネットさんへのQ&A

4	<p>Q 「結婚しているんだから働かないで養ってもらえばいいじゃない」と言われたときに、ジャネットさんならどのようにアドボカシーしますか？</p> <p>A 雇用する側の態度の問題だと思うし、相手が学ぶべきだと思う。私の仕事について相談しているのだから、私の関係性について口を出されるべきではない。結婚しているとか結婚していないとかは関係ない。働きたくて相談しているのだから関係ない。そういうことを理由にしないで欲しい。</p>
5	<p>Q ピアワーカーの研修プログラムの例を教えてください</p> <p>A オーストラリアのシラバスに私ともう一人の男性が、基礎トレーニングについてコメントをしている。ピアワークの認定には4段階ある。レベル1がベーシック(基礎)、レベル2が職業関連(vocational) レベル3が必要な能力(competency)、レベル4が学士卒の手前という方向。 https://mhcc.org.au/course/certificate-iv-in-mental-health-peer-work/</p> <p>オーストラリアのメンタルヘルスコミッションが、いまの認定4段階をトレーニングするための資源(資料)の補助をしている。オンラインで認定4段階の概要をみることができる。受講者に色々な課題を出している。受講者からは要求が高過ぎるという声もある。でもお金をもらって働くので、それは求めたいなと思っている。単に患者さんたちに優しいからということでピアワーカーとなってもらおうということではない。専門性のある仕事なのだ。</p> <p>(※追加の質問)レベル4の研修にはどのくらい時間がかかるのか？ → たとえばすでに分かっている人の場合は免除される項目があって、その場合は3カ月。ピアワークについて何の経験もなく、何も知らない人は6カ月。人によって違う。どれくらい早くその人がコースを進んでいくかによる。研修は、オンラインの単元もあれば対面の単元もある。</p> <p>(※追加の質問)6カ月って短いのでは？ → 人によってかかる期間がちがう。このコースを終えていないと雇用されることができないので、6カ月でも長いという人もいる。</p> <p>(※追加の質問)研修費用は？ → そこも私たちがアドボケイトしたところ。国からの補助金が出る。600ドルくらい。自分で払う人もいるし、雇用者が払う場合もある。</p> <p>働くための研修などの職業訓練をする組織として国から認められたら、その組織はどんな人にも(ピアワークだけでなく、水道屋さんになりたいとかさまざまな種類の)研修を提供することができる。専門学校、NGOなどさまざまなところが認可を受けている。私としてはNGOとかそういう想いのある人がやるのがいいなと思っているが、実際には研修はいろいろな機関が提供できる。しかし、トレーニングをやっていいと言われたところの多くがピアワークの研修をはじめたが、長続きはしなかった。トラブルが起きたり、苦情を言われたり。生徒がふえることで苦情が増えたりした。それもアドボカシーである。</p>
6	<p>Q アメリカでは毎年9月にリカバリーパレードがあると聞きます。日本でもささやかですが行われています。オーストラリアにもありますか？</p> <p>A リカバリーパレードというのではないけれどメンタルヘルスデーとかMADプライドコンサートなどはある。そういうのはメンタルヘルス月間にやったりしている。パレードとかはあまりないけれど、でもみんなて橋(ハーバーブリッジ)を歩いたり、公園に集まったりはする。</p>
7	<p>Q ピアカウンセラーはどのような立場になるのでしょうか？</p> <p>A ピアカウンセラーはいない。自分には分からない。ピアドクター、ピア〇〇、はいない。</p>

ジャネットさんへのQ&A

8	<p>Q 長期入院の問題についてどのようにするとよいと思いますか？</p> <p>A イージー。施設を閉じること。国をあげてやっていかないといけない。 （単科の精神科病院ではなくて）地域の総合病院に精神科病棟をつくり、リカバリー志向の実践を増やしていくことだと思う。</p> <p>今日（12月10日）は世界人権デー。障害者権利条約の中でも制限は可能な限り少ないほうがよいということが言われている。いいスタッフもいるのだと思うけれども、施設のような場所が少なくなることがよい。閉鎖された場所では色々な事が隠されている。オーストラリアでは、精神科だけの病院というのはない。クリニックはある。病床数はその地域によるけれども。地域の病院に精神科病床があることで精神科がノーマルなものとして扱われる。入院していた病院が閉鎖される時に日本でいう厚労省（国の保健医療に関わる人）が私を病院閉鎖会に呼んでくれた。閉鎖された病院で働いていたスタッフはコミュニティメンタルヘルスの場に移っていくけれども、精神科病院での（よくない）態度のまま、さまざまな地域の持ち場に行かれるのは問題もあるので、再トレーニングをきっちりと行う。</p> <p>病院が閉じるときに必修研修を行い、その研修は当事者から受ける。私ともうひとりの当事者の人で、病院職員たちに何を学んでもらうといいかを考えて研修を作った。研修会の最初は元病院職員たちは前向きではなかったけれど、5日目にはみんな前向きに参加をしていた。いまその人たちがどんな風に地域で働いているかは分からないけれども。優しくアプローチした感じはなくて、いままで良くなかったところをきちんと伝えるような研修だった。</p> <p>例えば隔離、身体拘束を減らしていくために、ナショナルヘルスフォーラムで要求し、現状の隔離拘束の件数などを公開するようになっていく。いまは件数としてはとても減った。</p>
9	<p>Q 緊張しないコツはありますか？</p> <p>A 緊張しなきゃだめだと思う。緊張しなきゃいけないし、怖いと思うことは前に進むために必要。不安や心配がエネルギーになる。簡単だと思ってしまったらあまり真剣じゃないし、効果的ではない。座っていて寝てしまいそうなどときにはパッションは出ない。パッションにはエネルギーが必要。あることに対して信念があればエネルギーがでる。人のためにちゃんと立ち上がって意見をいうことは怖いことだけど、それが本当のことだと思う。</p>
10	<p>Q 家族に統合失調症の者がいて自宅療養しています。家族ができることはなんですか？</p> <p>A 敬意をもって接すること。どんな病気であっても敬意をもたれるべきであるし、自分で決めることを大切にされるべきだと思う。その人にとっての人生のなかで起こる当たり前の生活が叶うことが大事。わたしは自分の人生は自分のものであって、自分のことは自分で決めたいと思っている。オーストラリアでは家族は子どもを離す。日本は近くに抱え込む感じかなと思った。オーストラリアでは18才くらいになるとほとんどの人が家から離れる。それが普通。</p>
11	<p>Q オーストラリアで一番数の多いピアワークはなんですか？</p> <p>A 病院ではたらくピアワーカーが多い。内容はスライドで紹介した通り。病院のほかではNGOやコミュニティセンターのヘルス部門とか。</p>
12	<p>Q ピアワーカーを目指すにあたっての一番大切な心構えはなんですか？</p> <p>A エンパシー（共感）と敬意。</p>

ジャネットさんへのQ&A

13	<p>Q オーストラリアではピアワーカーにどの程度の報酬が与えられていますか？</p> <p>A 1時間1800円。いまは2000円くらいっているかも。日本は最低賃金ですよ。オーストラリアでは時給は最低で20ドル(1900円)くらい。年収は例えば一番もらっている人で1700万円の人がある。ちゃんとした仕事をしていれば車を持てたり、家を持てたりする。</p> <p>日本ではまだそんなことない。 → 専門性がきちんと確立されれば、そこに向かっていく。ピアワークには専門性があり、その専門性は本を読んで得られるものではない、専門性に対して、報酬がきちんと払われるべき。でも給料が高い分、引き受ける責任も高い。なのでそこに座って自分の経験を話すだけではまだまだだと思う。最初に8人雇った時にうまくいかなかったのは、他の人とつながりを築くことが出来なくてリカバリーにフォーカスすることが難しかった。最初は知性と当事者経験があれば十分だと思ったけれどうまくいかなかった。そこからどうやっていくか、どうリクルートし、どうトレーニングをするか考えていった。</p> <p>私は自分のリカバリーストーリーを話すことはあまりなくて、その中の大事な要素をポイントで話したりする感じ。リカバリーストーリーを話す時に、病気自慢や沢山の酷かったことを話し合う感じになってしまうことがあるけれど、それは私は嫌い。エレメント経験は、なにかを語るために使う感じ。何かを描き出すために経験を使うのだ。例えば新聞記者がここにいたとしたらどん底のことを聞きたがると思うけれど、それをうまく使う。そこがどんなに駄目な場所だったかを伝えて、だからそんな駄目な場所を変える、そんなひどい思いを他の人にさせないためにこういうことが必要です、と、大事なことを伝えるために自分の経験したことを使うというような感じ。欲しがらるもの(大変な経験など)をちょっと与えて、自分の伝えたいことをきちんと伝える。なのでちょっと皮肉的な感じかもしれないけれども戦略的に話したり伝えたりすることが大事。</p>
14	<p>Q 当事者のことを日本ではユーザー、サバイバー、当事者と呼ぶ。世界的な共通の呼び方はありますか？</p> <p>A いま私はpersonal lived experience (パーソナル・リブド・エクスペリエンス)と言ったりする。元々は単にlived experienceと言っていたのだけれど、精神的困難のある家族と暮らしたというlived experienceがあるという形で、本人でない人もlived experienceという表現を使ったりするのに出会い、本人経験を言いたいときは、personal (個人としての)をつけるようになった。</p> <p>また、精神疾患 (Mental illness: メンタルイリネス)と言わないようにし、Mental health issues (メンタルヘルスイシューズ)というようにしている。ユーザーという表現はイギリスでは割と使われているけどオーストラリアでは「○○を利用する」という少し悪い意味で使われる表現であまりいい感じで受け取られないので使わないかな。サバイバーという言葉もあまり使わない。</p> <p>サバイバーは元々は反精神医学の人たちが使ってきた。そこを生き延びてきた人というにおいがするので。コンシューマーという表現も人気なくなってきた。ただ自分たちが活動し始めたときにはコンシューマーというのを使い始めていた。サービスや商品の消費者ということで、サービスを利用する権利があるということを大事にした。精神科医がサービスを提供し、そのサービスがうまくないなら、それをちゃんと伝えるということ。</p>
15	<p>Q ソーシャルワーカーとしてパワーレス状態になっている。ジャネットさんは情熱を維持するためにどうしていますか？</p> <p>A 最初は私も、相談をした医師もパワーレスになっていた。辛い経験をしてきた人こそ、粘り強さをもっていると思う。自分にひどいことをした人も沢山いるけど、いずれはそういう人もいなくなるので、いろいろなツールを使って発信すること。ネットや文章や、いろいろな形で発信するのが大事だと思う。</p>

ジャネットさんへのQ&A

16	<p>Q 簡単にアドボカシーとピアサポートの関連を教えてください</p> <p>A ピアサポートはお互いを相互的に支え合うこと。このことだとしたらアドボカシーは必要ないとも思うけれど、ピアワークになってくると話は違ってくる。ピアワークとピアサポートの違いのスライドをもう一度見てもらえるとよいと思う。セルフアドボカシーをサポートするのはピアワークだけれども、その人の代わりに話すことはピアワークではない。</p> <p>ピアワークの中では誰かのためにアドボケイトはしない。その人が自分自身のアドボケイトをすることを一緒に考える立場。</p> <p>ピアサポートはただの友達同士。あの人のためにこれをやるとか踏み越えることはしない。例えば頭をうって意識を失ったとかの身体状況なら、代わりに…ということがあるだろうけれど、メンタルヘルスの領域で代わりに決めるなどはない。アドボカシーはとても明確に考えないといけない。アドボカシーはとてもデリケート。ケアフル。言葉の捉え方がみんな違ったりもするので特に気を付けないといけない。誰かのためにになにかすることをアドボカシーと思っている人がいる。実際にはそうではないのだけれど。</p>
17	<p>Q パートナーはいますか？生きがいはなんですか？</p> <p>A 亡くなった夫がいる。6年前に亡くなった。パッションは精神保健サービスを改善していくこと。あとは友達、家族。有意義な人生を送っている。それって態度だと思う。残念だとおもうことは沢山あるし、残念と思うこともできるのだけれど、そうじゃない考え方もできる。ユーモアがあること、重いことも軽く思えること。赤いパンツを巣鴨で買うとかね。</p>
18	<p>Q ピアワークをすることの第一歩のためになにかアドバイスはありますか？</p> <p>A 他の人のためになにかを改善しようというパッションがあること。自分のためだけになると、恥とかにもなるけれど、他の人のためになるとパッションが湧く。自分のためではなくて人々のために…。精神の病になった人はみんな恥ずかしい気持ちや後悔のきもちがあったりするかもしれないけれど、人のためと思うと人前で話せたりする。</p> <p>自分自身がいい人になってからとか、完璧にならないとか考えてしまったらいつまでも声をあげられない。みんな不完全なのだから。</p>
19	<p>Q オーストラリアでのインターネット上での差別、ヘイトを改善するアドボカシーの取り組みを教えてください。</p> <p>A 差別を禁止する法律がオーストラリアにある。どんな差別についても（人種や宗教など）。なので、あからさまな差別は行われていないのだけれど、訴えられないように、「この仕事はあなたにとっては出来過ぎるから」といって断られるなどはあると思う。いまは隠さずに自分の状態をいうことを勧めている。インターネットのなかでメンタルヘルスと関連して…という差別はないけれども、網の目をくぐる感じでの差別はあるかなと思う。</p> <p>ネット上のアドボカシーというのを自分たちでやっている人もいて、ネット上の差別をみかけたらそれは間違っている、と意見を書き込んだりして訴えかける人達はある。</p>
20	<p>Q ピアワーカーからみて一緒に働くPSWに求めることはなんですか？</p> <p>A 尊厳をもって相手に敬意をもって働くということはみんなに共通していること。自分はピアワーカーに対してはこうあってほしいというのはあるけれど、他の職種に対してこうあってほしいみたいなものはない。PSWとピアワーカーの専門性はちがう。ちゃんとピアワーカーとしての誇りをもつことが大事。</p>

ジャネットさんへのQ&A

21	<p>Q 病院の事務局長や組織のトップの方に対してピアワーカーを雇うメリットを伝えるために、インパクトのあるよい言葉はありますか？</p> <p>A ピアワーカーが何をしているのかを分かってもらう必要がある。この質問があること自体が、ピアワーカーがなにをする人なのかかわからないってことだよ。管理者の人がピアワーカーがいたら、他の職種が助かることを知れば、従来のスタッフにかかるプレッシャーを減らし、人々のクライシスを防止する事にも本当は役立つと思う。それを知ってもらうことだと思う。</p> <p>ピアワーカーが病院にいることを従来のスタッフが恐れることがある。ピアワーカーには人権侵害なども見えてしまうのでは、それらについて批判してくるのでは、とって怖く思ったりすることもあるだろう。</p>
22	<p>Q 日本の患者さんは妄想や幻覚がとれていない方が多いと思いき、それゆえにピアが無力感を感じているのではないかと思いますでしょうか。</p> <p>A 日本人の方が妄想的とかそういうことは特にはないと思う。状態がわるくても親切さがどういことなのか、というのはみんなわかっていると思う。ピアワーカーというのは共感（エンパシー）と、誰かが傍らにいることの重要性をわかっているというのがとても大事。</p>
23	<p>Q ピアであることを隠したほうが就職できるという現実が日本にはあると思う。運や恵まれた人だけがピアスタッフになれる現実。そんなにピアとしての求人がないのがいまの日本。どうしたら現実を変えていけると思いますか？</p> <p>A いいトレーニングをして、専門性を確立していくことが大事。</p>
24	<p>Q ピアワーカーの地位向上のためにはどうしたらよいと思いますか？</p> <p>A 倫理と原則が大事。それを全てのピアワーカーにインプットすること。出来るようになること。それが得られるトレーニングをすること。そして信頼を得られるようにすること。</p>
25	<p>Q ジャネットさんは病気のコントロールをどのようにされていますか？</p> <p>A やりかたはみんな違いますよね。自分にとってなにが効くのかは自分に聞くしかない。あくまでも私の場合だけれども、なにかがコントロールできないと思った時は、自分の舌で自分の歯の数を数えることが役に立ったりする。自分のきもちがコントロールできないときにも瞬時にできる。なのでみんなそれぞれの方法があるんだと思う。</p> <p>ほかにも朝起きた時に毎日これから何をどう準備するか、〇〇となったときにはどうするかなどをちょっとおかしいくらいにやっている。でもそういうことが施設（病院）から出ていくことに役立った。そのあらかじめ考えることを毎日毎日やっていて、それが考えたとおりにうまくいかなかったりしても全然良い。入院中にそういうプログラムがあった。それをやっていたことが自分から施設から出ていくことに役立った。お金の管理、料理、衣類のこと、など社会のなかで生きることに役立つことをやっていた。入院中は私は危険な存在（荒くれ者）だと思われていた。</p> <p>脱施設化がはじまったときに、一番施設から出にくいのではと思われていた私をプログラム対象者として彼らは選んだ。上手くいかないと思われていたけれど、上手くいった。</p>

沢山のご質問、誠にありがとうございました。



「期待」と向き合い働き続けるためのセルフケア ～時には休職してもいいじゃん～

前半は、話題提供者から休職から復職までの経緯や想いの語り、話題提供者の同僚でもある運営の一人から同僚視点での想いの語りと質疑応答。後半は、いすを車座に並べ替え、全員で座談会を実施。

「ボランティアの学生さんにも座談会に参加していただき、皆で意見交換できたことが良かった」、「なにより、高橋さんのお話が1番良かったと思います。休職をタイトルにしているからこそ、参加者の多くは休職について聞きたい人が集まっていると考えられます。高橋さんの語りによって否定されない安心の場になり、自然発生のピアサポートへ繋がっていくと感じました」、「誰もがお互いの話を否定することなく安心して参加できている様子で会自体がピアサポートの場であった」等の振り返りが運営メンバーから出た。

なお、準備について「事前準備の段階から打ち合わせに参加させていただいたので全体の流れ、主旨を把握でき話題提供の話しを組み立てやすかった」との振り返りがあった。

また、参加者から「もう少し時間があればよかったかな」、「今回のピアスタッフの集いに感銘を受けたのでまた次回の集いに参加したい」といった感想をアンケートでいただいた。

(文責:山田 裕貴)



分科会メンバー

山田 裕貴	所沢市 保健センター
瀬戸 麻貴	社会福祉法人成和会
藤原 由紀	埼玉県済生会鴻巣病院 生活支援センター夢の実
高橋 哲	埼玉県済生会鴻巣病院 生活支援センター夢の実

分科会 2 報告

ピアスタッフと専門職 ～「協働」ってなんだろう?～

分科会2では、参加者を5グループに分けて(自由着席)、実行委員3名及び話題提供者2名をファシリテーターとして配置しました。

前半では「渋谷区地域活動支援センターふれあい」と「中野区地域生活支援センターせせらぎ」の2事業所からそれぞれの概要や取り組んでいる協働について紹介を行いました。協働してきた年数も違えば、事業所の特色も違う為、それぞれに良さがあったように思います。

後半では各班でグループワークを行ないました。テーマは「発表を聞いて思ったこと、考えたこと」でしたが、日ごろの体験やお気持ちなどを自由にお話し頂きました。また、最後の10分では各班の代表者からグループワークで出た話を共有して頂きました。

「コミュニケーション」や「1人職場の難しさ」についての他、遠方より参加して下さった方からは「地方の雇用、賃金、収入が少ない」という話も挙がりました。

グループワークが終わった後はファシリテーターも含めた参加者同士での交流が活発に見られたように思います。「協働」というテーマのみならず、色々な方とワイワイ話す事で新たな発見があったり、明日への活力に繋がったのではないのでしょうか。

(文責:清田 智也)

分科会メンバー

清田 智也	渋谷区地域活動支援センターふれあい
長嶋 美紀	渋谷区地域活動支援センターふれあい
里村 嘉弘	東京大学 大学院医学系研究科・医学部 医学のダイバーシティ教育研究センター
斎藤 俊生	中野区地域生活支援センターせせらぎ
林 友里	中野区地域生活支援センターせせらぎ

なりたてピアスタッフの純真な気持ちを語る

分科会3は、テーマ「なりたてピアスタッフの純真な気持ちを語る」で、登壇者4名、司会1名のシンポジウム形式でした。登壇者は石田貴紀さん、天田由紀子さん、高田晴江さん、石村徹、司会は金原明子さんでした。

内容は、登壇者の自己紹介の後、勤務して感じること

- ① 入職前後の認識の違い
- ② 上司・同僚との人間関係
- ③ 利用者さん/患者さんとの関係
- ④ 支援される立場から支援する立場に変わることによる自分の変化
- ⑤ 職場に求めること/理想の職場とは

ピアスタッフになりたい人からの質問

- ① どんな人がピアスタッフに向いていますか
- ② ピアスタッフになった経緯は
- ③ 勤務の条件[勤務時間、給与、業務内容]
- ④ ピアスタッフのやりがい

…について登壇者が各自答えていきました。

各自の答えが重複することなく、色々な意見が出たことが良いと思います。質疑応答の後、登壇者から一人ずつメッセージを発信してもらいました。司会の見事な進行で、大きな混乱もなく終了しました。5分オーバーで収まりました。終了後のアンケートでは、ピアスタッフの実情を知ることができて良かったなどの、好意的な評価が多くみられました。

(文責:石村 徹)

分科会メンバー

天田 由紀子	HALO(ハロ)相談支援センター
高田 晴江	相談支援センターくらふと
石田 貴紀	NPO法人トモニ、東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部
石村 徹	支援センターアゼリア
金原 明子	東京大学医学部附属病院 精神神経科

分科会 4 報告

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること ～日常の身近な権利について考えよう～

話題提供①(坂本智代枝)では、「ピアスタッフが行うアドボカシーとは何か?」について、ニューヨークと日本のピアスタッフの実践から、ピアスタッフのアドボカシーの具体例について報告がありました。

話題提供②(櫻田なつみ氏)、話題提供③(田村大幸氏)では、

- (1) 自身のリカバリーストーリー
- (2) ピアスタッフの実践及び就労支援事業所の実践
- (3) リカバリーとアドボカシーをもとに大切にしていることについて報告がありました。

(報告書後方の資料集参照)

そのあと、グループディスカッションを行い、話題提供の櫻田さんと田村さんもグループに入っていました。そのなかで、以下のことが議論されました。

- ① 当事者の声を届けることが大切であること、
- ② 長期入院は人権侵害であること、
- ③ ピアスタッフも権利を侵害されていること、
- ④ 個人情報(電話番号や住所など)の開示を求められた時にどう対応どうするか。
- ⑤ 権利主張のぶつかり合いになった時の対応どうするか。利用者からのクレームにどのように対応するのか。
- ⑥ 日ごろからピアスタッフ・専門職などの支援者間でネットワークを構築しておき、フォローできる体制づくりをしておくことが必要であるとまとめられました。

(文責:坂本 智代枝)



分科会メンバー

櫻田 なつみ	(株)MARS 就労支援事業所co opus
田村 大幸	就労移行支援事業所 こねくと
坂本 智代枝	大正大学
西村 聡彦	日本ピアスタッフ協会
黒木 紀子	国分寺すずかけ心療クリニック

分科会 5 報告

ピアスタッフの価値と役割を考える ～ピアスタッフが大切にしたいこと～

当日は、ピアスタッフ・当事者・専門職・教育研究者など計24名にご参加いただきました。ありがとうございました。

前半は「ピアスタッフの価値と役割を考える会」（研究会）が日本ピアスタッフ協会の協力のもとで検討を重ねた「ピアスタッフ大切にしたいこと」Ver.1の12項目を報告しました。後半は、参加者の皆さまと一緒に報告した各項目をグループでそれぞれの立場から検討しました。

参加者の皆様から「全体的にとてもよくまとまっている」「専門職も分かり合いたい。ピアだから言える」「専門職が分かり合いたいことをアプローチしたら危険である」「ピアを勉強・研究すればするほどピアからかけ離れる」「ピア自信も大切にしたい」などの活発な意見が交わされました。特に「弱さを絆にする」という言葉に感銘を受けました。また、「ピアスタッフで生計をたてられるの?」「待遇や価値をどう上げていくの?」「ピアって何?」「12項目にない大切なものがあるのでは?」などの意見が出されました。

今回の意見を参考に検討を重ねてVer.2を出す予定です。「ピアスタッフ大切にしたいこと」としてこれからも一緒に考えていきましょう。

(文責:真嶋栄)



分科会メンバー

相川 章子	聖学院大学
荒井 浩道	駒澤大学
鶉 領太郎	静岡福祉大学
関口 明彦	ライフサポートMEW
濱田 由紀	東京女子医科大学
真嶋 栄	医療法人 学会会 木村病院
矢部 滋也	一般社団法人 北海道ピアサポート協会
横山 和樹	札幌医科大学

～アンケート結果のご報告～

参加された方を対象に、オンラインでアンケートを実施しました。
その結果をご報告します。

アンケートにご協力くださったみなさま、ありがとうございました。



アンケート実施方法

実施主体：日本ピアスタッフ協会

実施方法：オンライン（Google Formsを使用）

依頼方法：会場参加の方には、資料封筒にURLとQRコードを印刷してお渡しし、当日全体会でご案内した。加えて、集いの申し込み者全員に、後日peatixにて、改めて協力依頼した。

実施期間：2023/12/9～2024/1/8

対象者数：219（参加申込者：206 実行委員：13）

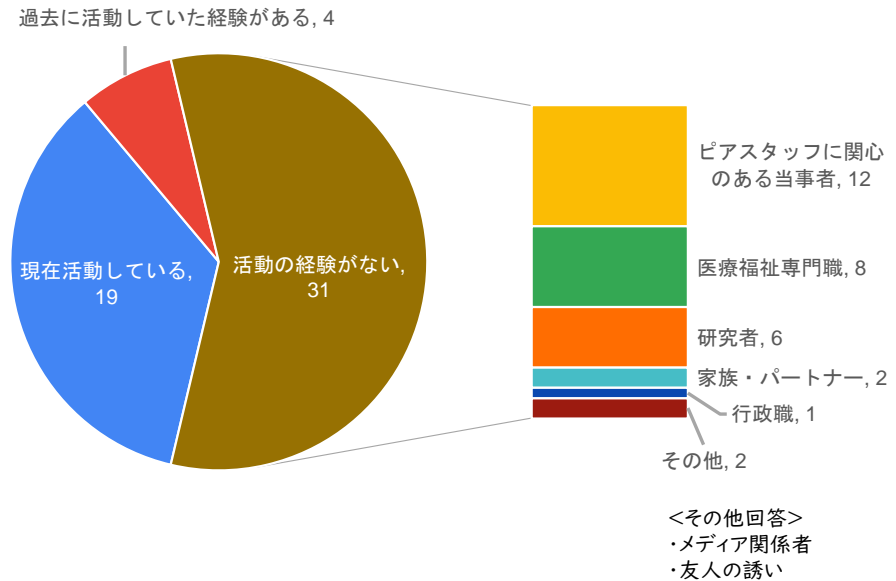
回答者数：54（回収率：24.7%）

アンケート結果報告 (1/9)

アンケート集計結果

基本属性 n=54

立場 (問1.)



性別 (問5-1.)



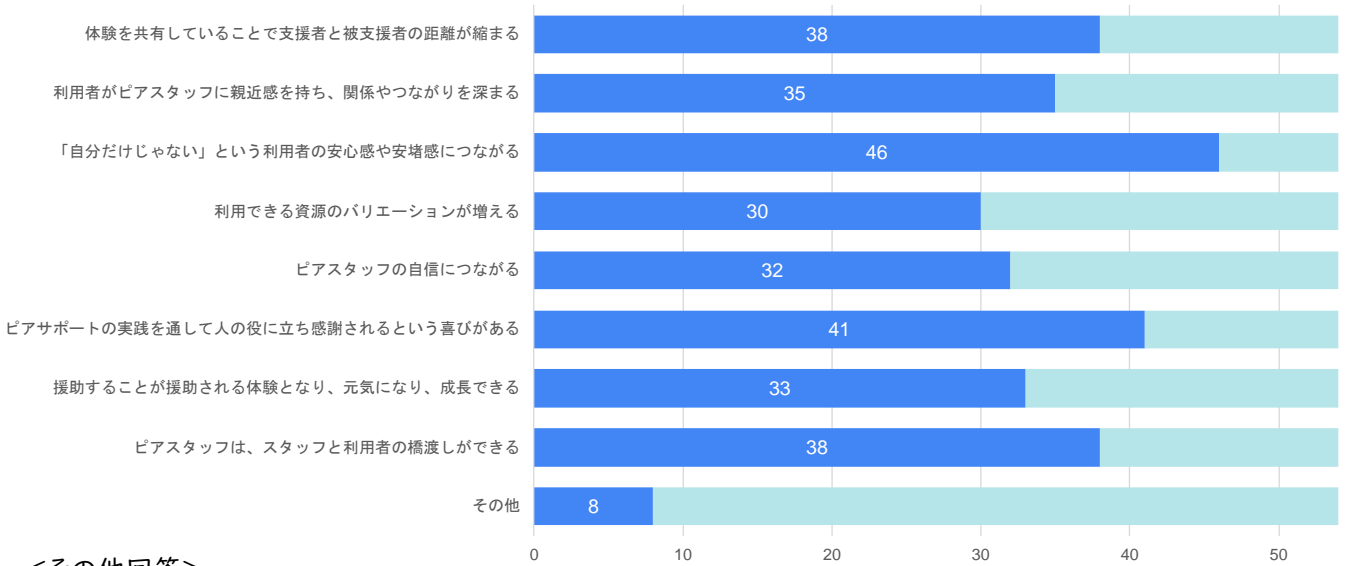
年齢 (問5-2.)



アンケート結果報告 (2/9)

問2. ピアスタッフの活動には、どのような効果や意義があると思いますか？

n=54

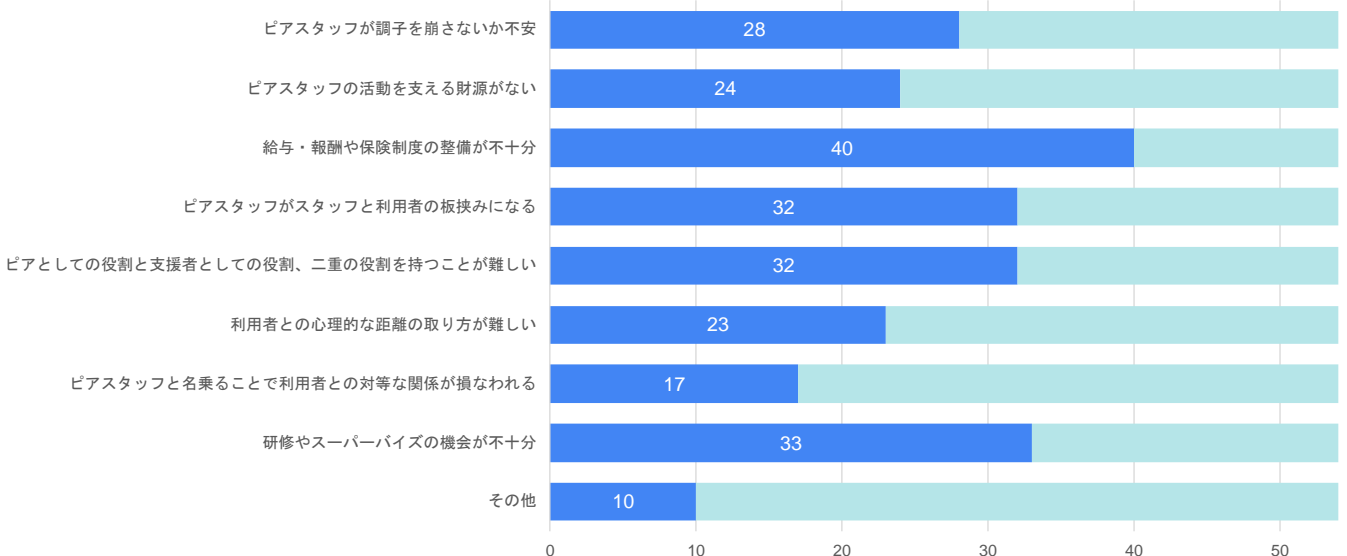


<その他回答>

- ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる、自分の気づき、自分の為に、活動することで他のピアスタッフがいることを知り、仲間が増えることで1人じゃないと踏ん張れるんだと感じました。
- 質問の内容の意図が不明確であるため、回答できない。
- 長期入院中の人たちに精神疾患の経験を活かす働き方があることを伝えられる。長期入院中の人たちに一度諦めた退院について、もう一度自分の中で考えるきっかけ作りにつなげることができる。
- 病むという経験を語り合う事でお互いのカタルシス効果が期待できる
- ピアスタッフの活動がひろがることで市民のメンタルヘルスの意識が高まる
- 支援者の意識の変革を促し、支援の文化を変革する可能性がある
- ピアサポートの輪が広がる
- ピアスタッフとサービス利用者として相互に相手のことを気にかけてたり思いを語り合い聴き合ったりするようなことができれば、一方的な支援被支援を超えた相互の支援被支援関係、「お互いさま」の関係が生じる

問3. ピアスタッフの活動に関してどのような不安や困難、課題があると思いますか？

n=54



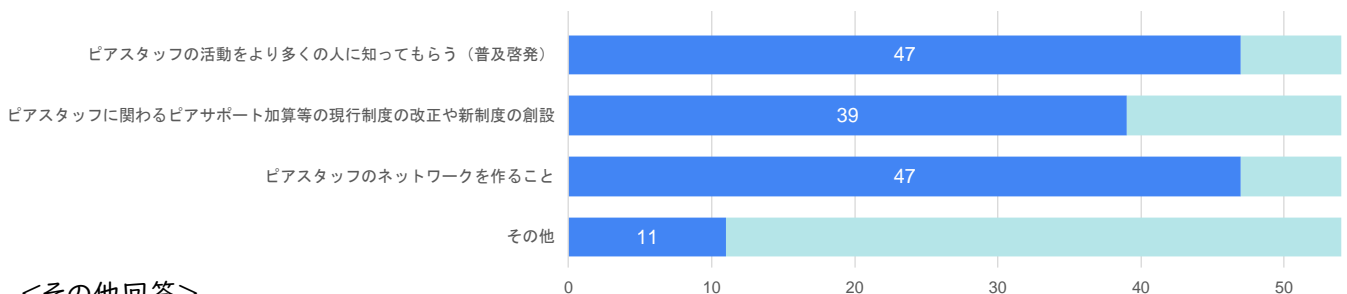
アンケート結果報告 (3/9)

<その他回答>

- 経験がないのでわかりません
- ピアスタッフと名乗ることで、給与面など不利益を被ることがあるのではないかと不安
- カウンセリングとは違うことの伝え方を知りたい
- 医療現場で働く場合、未だ事例が少ない。
- 対等性をどのように保つか
- 専門職と協働していて、役割分担を依頼された際に、被支援者が体調を崩す要因としてあげられていた、過活動傾向について、専門職が制限をかける役割、ピアスタッフは被支援者の過活動を認める役割を依頼されたが、その際にその役割分担を断り、自分のペースで支援したことがある。その際に依頼内容を断ったため、協働していた専門職と関係性があまりよくない経験をしたこともあったが、現在も信念を持ちながら、ピアスタッフとして支援している。
- 雇用のあり方。都心部ではピアスタッフの勤務先と利用サービスを意図的に分けることでバウンダリー等の対応が可能であるが、地方においては資源が乏しく利用しているサービス先に雇用されることが多く、対等性が担保されにくい
- 既存の支援システムがリカバリー志向でない場合の困難さがある
- 職場の他の職種のパピアスタッフの活動についての理解のなさによる仕事のしづらさや職場内での孤立
- 他の専門職への「取り込まれ」

問4. ピアスタッフの活動の将来について、どのようなことが必要だと思いますか？

n=54



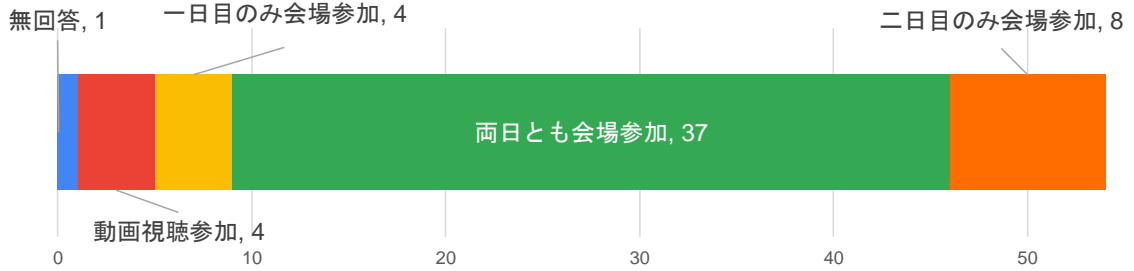
<その他回答>

- ピアスタッフのピア・サポート
- ピアスタッフとその周りで働く他のスタッフ、共に心のケアが必要
- 当事者経験のない専門職へのスーパーバイズ
- ピアスタッフの資質の向上に向けた実践的な研修
- ピアスタッフの働き方は、ピアサポートが存在すれば、いろんな働き方があった方がいいと私は思っていて、その手引きのようなものがあるのではないかなと思う。ピアサポート加算が始まったばかりなので、この機会に広く周知できる機関で、手引きを作成してはどうかと思う。
- 福祉や障害者支援は変化していく中で、精神科病院の治療には進展がみられていないという事を私は常々感じています。精神科医療との関係性をしっかりと作り、ピアスタッフ医療分野での参加、活躍のできる体制を構築する事が今後の課題であると思います
- 専門職の理解をより深めていくこと
- SVの養成
- 一緒に働く他の職種への教育、研修の機会
- 雇用の拡大、ピアサポートが有効であることを客観的に示すような研究
- ピアスタッフの医療・福祉の現場で働くことでどのような良いことがあるか説明できるようにすること。ピアスタッフの価値の整理と倫理綱領、行動指針の明確化。

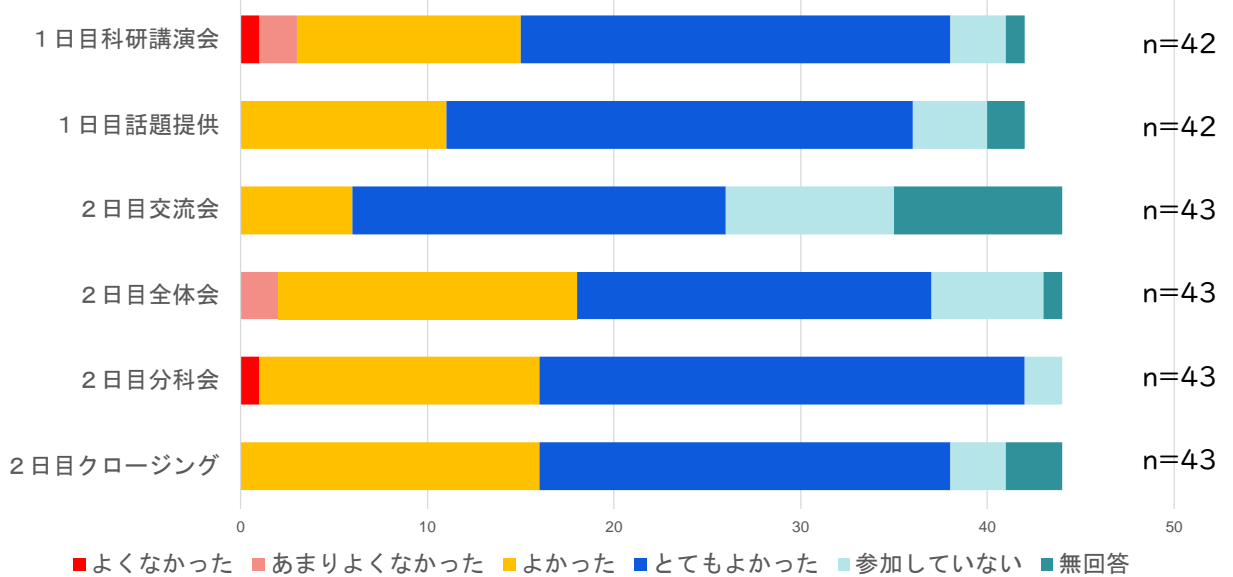
アンケート結果報告 (4/9)

問6-1. ピアスタッフの集いについて

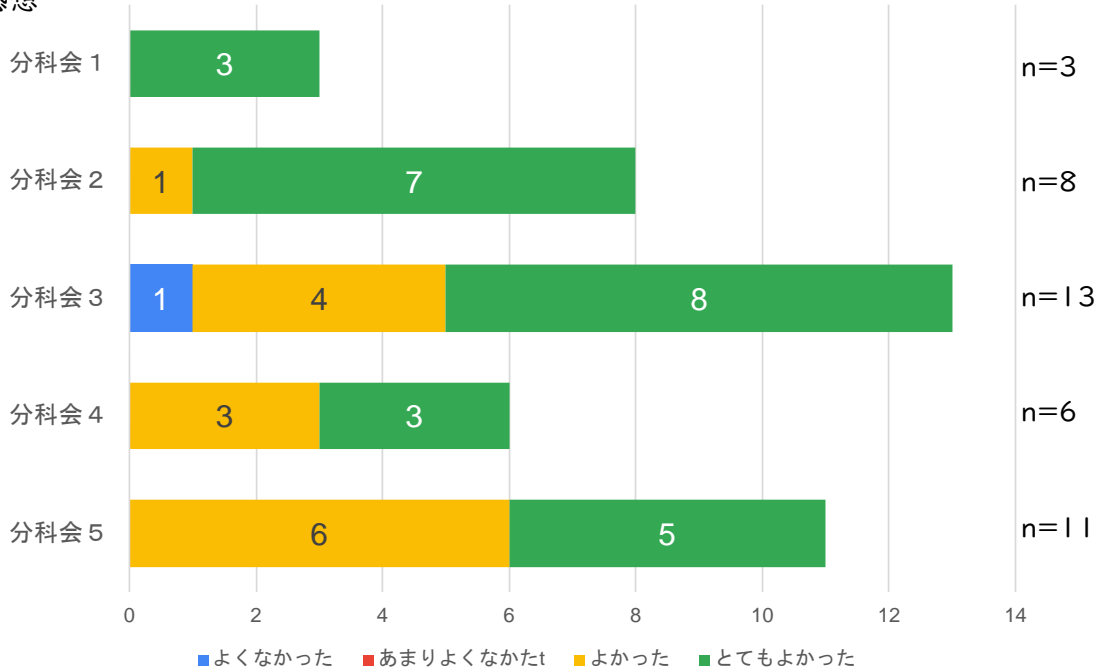
購入チケット種別 (n=54)



参加しての感想 (1日目:n=42, 2日目:n=44)

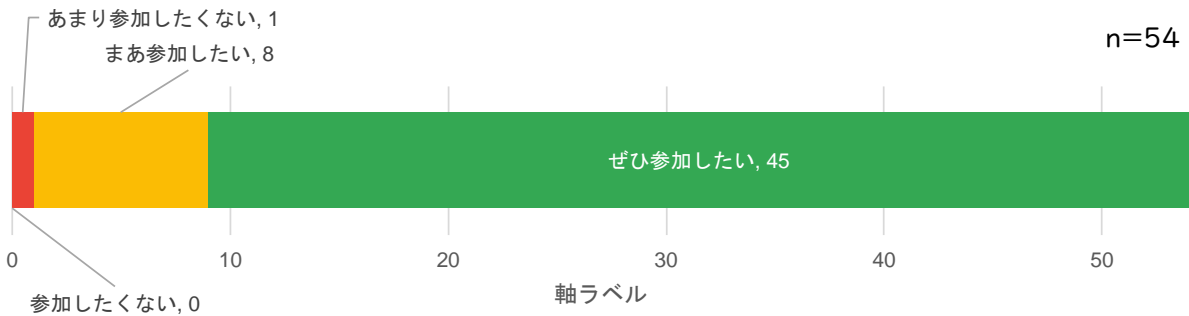


分科会別感想



アンケート結果報告 (5/9)

問6-2. このような集いに今後も参加したいと思いますか。



問6-3. 今後、どうすればより良い集いになるとお考えか、ご自由にご意見をお書きください。

- 分科会の途中で、意見を述べた方が居ましたが、怒鳴ったり、大きな声を出さないように、あらかじめ注意喚起をしておいてほしかったです。(質問や意見を言う場、時間が違っていただけでした)
- とてもあたたかい会だったと思いました。会場も駅から近くて便利だなあと感じました。
- ジャネットさんの講義が長くてとても疲れました。休憩を入れてほしかったのと、時間配分の説明もなくて、いつになったら終わるのか、休憩はあるのかばかり気になってた。ジャネットさんの講義で言いたいことの焦点を絞ってインパクトの残る話しにしていただけたらと思う。通訳者の通訳も淡々として、流れる台本みたいでした
- 自宅より通える近隣の都市だと助かります。
もし、地方で開催されるのなら分科会もオンライン参加できるとありがたいです。
- 初めて参加する人がもう少し溶け込めるような雰囲気があるとより良いかなと感じた。
- 交流会では、なりたい人、迷っている人、興味がある人、その他のための時間がほんの少しでもあったらなと思いました。名刺交換と情報交換している中で何も出せないなあと、勉強させて下さい
- 分科会のバリエーションがもう少しあっても良いのでは？
- 参加者のみんなと交流できる時間が沢山あると良いのでは？
- ピアスタッフ2年目なのでまだ分からないが、続けることだと思う。
- オンライン講演会も開催をお願いしたいと思います。
- 精神疾患にかかりその経験がある事に対してみんなもっと誇りと自信を持って欲しい。とても大変な思いをしてきたのだから。そして悲しい歴史を塗り替えて行って欲しい。
- ピアスタッフの求人の情報があるといいです
- 講演の質疑応答の時間をもっと長くして欲しかった
- 開催者は大変だと思うが、オンライン参加は継続した方がいいと思う。交通費を払えない人もいると思われるからである。
個人の意見になるが、できれば東京での開催だと現地参加できると思う。
- 座学のプログラム中心で、お話を聞くという事がほとんどでした。それはそれでいいと思いますが、参加型のプログラム構成があるとより良い集いになると思いました。
- ピアの交流会ともなるとどうしても個人的な話になることも多いため、安心して話ができるよう最低限の理解を参加者に求められたらいいと思う。
- 2日目の分科会しか参加できませんでしたが、できれば他の分科会にも顔出しできるような構成があるといいな...と思いました。理由は、全部の分科会に参加したいくらい、良い企画ばかり揃っていたからです。例えば分科会を2部構成にするとか、グループワークに参加したい人と、複数会場を行き来したい人で人数制限するなど...やり方は工夫できるような気がします。勝手なことばかり言って申し訳ありません...
- 時間が長いと不調になりやすいので、時間がもう少し短いと助かります。ただ、時間をかけた方が良いとも思っていて、難しいです。

アンケート結果報告 (6/9)

- ピア同士、関係者同士の交流が充分できる、ほかにはない特色ある「全国大会」を目指すのは如何でしょうか。前後の時間を延長すれば交流会を<2日間>開催する余裕が生まれるかもしれませんが、難しいでしょうか。ご検討いただければ幸いです。
- 集いに参加することで、明日からまた自分の持ち場でがんばろう、と思えるようなエネルギー交換、充電などが出来る場作りをするとよさそう。なので今回の交流会などはとてもよかったのと、また時期が戻ってきたら懇親会などが出来るようになるといいと思う。
あとは交通アクセスの良さそうな場所で行うと言った、環境面も結構大事に思いました。地方からでもアクセスしやすい場所、駅からさほど遠くないなどは重要な要素に思います。
また周知という意味では、このような集いがあることを知らない方もまだまだ多いため、横のネットワークづくりを拡大させていくことも大事に思います。
- まだ開催されていない都道府県で集いを開催できるとよいと思います。
- 次回開催地を(2年前くらいに)設定し、準備を早めに進めて、各地域のピアスタッフのネットワークづくりに寄与するとともに、集いの充実を図れればと思う。と同時に、日本ピアスタッフ協会本体をもう少し盤石な体制にしていきたい。
- 今回は科研の講演とあわせた開催で、とても良かったです。このような形であれば基調講演的な部分での講師の招へいについて運営面・経済面ともに負担を分け合うことができると思いますし、みなさんの満足度も高いと思います。なかなか探すのは大変かもしれませんがこのような形が一つの形としてまたできるとよいのではないかと思います。
- 交流会の時間がもっとあると良いと思った。
- 地方在住ですと、オンラインかハイブリッド開催が参加しやすいです。反面、対面開催の良さもあります。ハイブリッドで行う場合、例えば各ブロックごとに現地会場を設営し、オンラインで会場をつなく形や対面のみでなくオンライン分科会も設けるなど選択肢を増やしていただけると参加者の参加する権利の擁護にもつながるように思います。選択肢が増えると参加しやすくなり、多様な皆様の声がより多く届くようになるのかな、と思いました。
- 今回の交流会のように、参加者同士が交流できる機会があると良い。分科会のバリエーションがもう少しあっても良い。
- 分科会にも参加したい。
- 会場参加と動画視聴のようなりモート参加との参加方式の併用は良いと思ったので可能な範囲で継続できればいいかなと思います。
また、運営への参画やお手伝いのような形にも実行委員として、実行員ではないけれどサポートをする協力者的な立場、話題提供者など多様なあり方があるということは、運営の観点から集いがより良い形になる上でも大切かと感じました。

問6-4. その他、感想や思いなどご自由にご意見をお書きください。

- 交流会には途中からの参加でしたが、様々な自治体から参加しており、ピアについてそれぞれ違う運営、講習などがあることを知れたので良かったです。
- ジャネットさんのパッションと怒りに心動かされました。行動しないといけないと思いました。
また、ピアワークとピアサポートの違い、アドボカシー、アドボケイトについて、もう少し日本の中でも日本語で皆で考えたいと思いました。
- この集会で色んな方々の活動を聞いて刺激を受けました。また、私な今後の方向性や、あり方に大きな示唆を得ることができました 😊
- ピアスタッフとして働いている人の生の声が聞けて良かったです。
- スタッフのみなさん、お疲れさまでした。
・第1日目のジャネットさんの講演、会場の空調温度や、休憩が2時間後ということは少し残念でしたが、講演の内容はとても良かったです。
・ピアスタッフが中心となり行うのはとても素晴らしいことだと思います。私の希望に繋がりました。
ありがとうございました。

アンケート結果報告 (7/9)

- 2日間を通して、いろいろと考えることができ有意義な時間だった。
一人くらいとしかお話できず、黙々と参加してしまったのがやや心残りでしたが、それでも参加したこと自体にまずは意味があったと思う。
次回参加する機会があれば、もう少し積極的に人と関わられるような自分になれていたら良いと思う。
- 勇気をもらいました。ありがとうございます。
- 交流会、参加できませんでしたがとてもいい試みに思えました。
次回以降も相互に交流できる機会を設けていただけたらと思います
- 全体的に私(中卒)には難しいと感じました。世の中みんな高等教育を受けているわけではないことを知って(理解して)ほしい!
- 非常に有意義でだった。大変だと思うが次回も行っていきたい。
- 限定的な障がい者GHの中で、疎外感を味わい、さらに突然解雇までされたために、指導者の教育が必要だと感じています。
- 国連を通して海外の進んだ精神医療を学びに行きたくなりました。
国の制度がもっと良い方に変われれば良いと思いました。
どうしてこんなに悲しい気持ちの人が多いのでしょうか?
当事者として怒りと悲しみを感じました。
- 交流会で飲み物がなかったのが残念でした
- これからピアサポート(ピアスタッフ)が有効であってなくてはならないものであるということを社会的に認知されるようはたらきかけていきたい。
- どれくらい的人数で開催準備をされているのかわからないが、参加するたびに、開催に携わっている方々の力に驚くことが多い。このような機会を精神疾患当事者以外の人たちにも知ってもらい、当事者と協働する専門職、当事者家族、将来的には一般市民に広げ、精神疾患への偏見がなくなることにつながってほしいと思う。もちろん、ピアサポートがいろいろな場所で活用されるようになり、ピアスタッフの雇用の拡大につながるといいと思う。
- ここでは細かい話はしませんが、自分の経験や現在の立場上、ピアスタッフの集まりに参加して良いものかと悩んだのですが、想像以上に多様な方々が参加されていて、いろいろ交流が深まりました。いい機会をいただきありがとうございます。
- 初参加でしたが、色んなピアサポーター、ピアスタッフ、支援職の方たちと、短い時間とはいえ、密度の濃い対話の時間を持てたことに感謝しています。もっともっと話したいし、交流したかったなあとしみじみ思っています。リカバリーフォーラムも素敵ですが、ピアスタッフの集いの双方向性とサイズ感が、個人的にはジャストフィットしました。また機会をみて、今後も参加できればと思っています。運営スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- 大変良かったです!
- 2日目に登壇させていただいた者ですが、違う分科会の人達との交流があると嬉しかったです。
- 今回初めて参加しました。参加してよかったです。交流会は椅子の輪が用意されていたので、知り合いや繋がりが無い状態で参加しても、輪の中に入って会話に参加しやすくなって良かったです。ぶんかはいは、なりたてピア~に参加しましたが、経験の浅い自分にも入りやすいテーマで参考になりありがたかったです。
- 通訳を必要とする講演の難しさを、痛感しました。分かりやすい図表などを含め、よほど精選した内容のプレゼンテーションでない、折角の2時間もの時間が苦役になってしまいます。
- 整ってからで良いので、1日目講演の動画に関するアナウンスをお願いいたします。
- 情報や仲間が地方では少ないというお話を多数お聞きしましたが、集いなどを通じて、少しずつ広がることはとてもよいことだと感じました。
- 沢山の方のおしゃべりしている様子を見て、見ているだけでも元気がもらえたように思います。また「対面でははじめまして」という声もあちこちで聞こえて、ここ数年のオンラインでの出会いだったんだなと思えますが、やっぱり生で顔を合わせることができるといいですね。沢山の時間おしゃべりができたわけではなくても、少しの時間でも沢山のひとと会えたことが、今回のテーマの通りだなと感じています。このような場があることを本当にうれしく思いました!

アンケート結果報告 (8/9)

- 実際につどいに参加する事で全国にこんなに沢山のピアサポートに関する援助者、当事者、これから目指す方々が居ると知れて、精神科のケアのフィールドが病院から、地域へと広がり、認知度も上がって行くの良いと思います。
- 企画、運営、大変お疲れさまでした。
おかげさまで楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました！
- 久しぶりに対面開催、とてもよかったです。実行委員長長理恵さんはじめ、実行委員の皆様、坂本先生、ジャネットさん、本当にありがとうございます。お疲れ様でした。
- ピアサポートに価値をもつ人たちが実際に出会って集えるこの場がとても貴重だと思いました。
- 多くのピア仲間とつながりが持てて、有意義な時間だった。一人ではないという安心感を感じることができた。
- 今回は発熱で2日目会場参加がかなわずとても残念でした。オンラインでしたら、感染を気にせず参加できます。上述しましたが、オンライン分科会もあるとありがたいな…と思いました。またの機会にぜひ皆様とお会いできまことを楽しみにしております。この度はありがとうございました。
- いままで、ピアスタッフの活動は、専門職の目線から語られることが多かったように思う。そして、そこから生まれた「神話」をピアスタッフ自身が信じ込んでいる場面があるような気がする。これからは、ピアスタッフが自らの活動を自らの言葉で語っていくことが必要に思う。
- 交流会のようなオープンなスペースがとても活気があってよかったです。プログラムを組むのは大変だと思いますが、ああいった余白の時間があるのは対面で集まる醍醐味だと思いました。
- 意志を強くもって活動なさっている当事者がいらっしやるのが、私にとって希望になります。
- アンケートの回答が遅れてしまい申し訳ありません。

問6-5. 「日本ピアスタッフ協会」へのご意見・ご要望など、ご自由にご意見をお書きください。

- 今後また、このような機会を作ってくださいと思います。
自分の中での学びが増えました。
ありがとうございました。
- 大変なご活動をおつかれさまです。
- グループ討議や全体会の発言が良かった。いろいろな活動報告も聞いて良かった。先進地であるオーストラリアの活動がそこまでの体制ができた理由を知りたかった。
- このような素敵な会を開催していただきありがとうございました。
ピアスタッフ協会の皆様のご尽力のおかげだと思っております。
また次の機会を楽しみにしております。
- 私があまり関心がないからなのか、どのような活動をしているのか全く分からないなと思います。
協会の皆さん、お仕事をしながらで大変かと思われそうですが、少し閉じた協会なのかなと思います。
提案なのですが、こころの元気+やしっぷろ等で協会として連載をされてもいいのかなと思いました。
- 抄録集が読み応えあって良かったと思う。
集いが終わってからやっとゆっくり読んだが、せっかくなら始まる前に読んでおきたかったと思った。
- 世の中を見る余裕もなく立ち止まっていた自分が情け無いと思うくらい
沢山の努力で出来た協会だと感じ、
前にゆっくりでも進む勇気をもらいました。ありがとうございます。
- 会費を払いたいのですが案内などしていただけたら(いつまで払ってあるかわからなくなっています)
- まだまだこれから学ばせていただきたい。
- 応援しています。差別のない社会へ向かって進んで欲しいです。
- 協会の電話番号があるといいです
- お忙しいなか本当にいつもありがとうございます。

アンケート結果報告 (9/9)

- 大変だと思いますが、今後も引き継ぎながら、頑張ってください。
- このような機会をまた設けていただけたらうれしいです。またイベントや書籍、時事的なものなどの情報を送っていただけると助かります。
- 生活支援センター勤務の職員です。今回、Peatixでの参加申込みが難しい方もいらして、出来れば、参加方法にもう少し選択肢があればいいなあと思いました。
- 今回ある方からロコミで知りました。参加者に可能なら何か企画ある際は引き続きご案内いただきたいです。
- 勉強不足で、日本ピアスタッフ協会のことをあまりしなかったもので、調べます。どんな活動をされているか、これから調べますが、できたら、日本と名付けているのなら、日本のピアのことを知って、ホームページなどで見れるようにしておいてほしいなあと思いました。自分と関わるところはもちろん、他のピア活動についても把握しているモノなのかな?と感じました。全国ピアスタッフの集いを開いてくれて、ありがとうございました。交流会など、学びがたくさんありました。
- ありがとうございました。
- 以前からピアスタッフの価値と役割に関する研究会があり、そこから「ピアスタッフが大切にしたいこと (ver.1)」が出ていることをこのたび知りました。今後ver.upが図られていくものと思いますが、この間の検討の経緯などは日本ピアスタッフ協会のHPなどで公開されているのでしょうか。
- ありがとうございました!
- 私の立場としては、ピアスタッフの方々からの国の施策や制度に対する要望をうかがいたかったので、今後、そのようなアンケートを実施していただきたいと思います。
- がんばりましょう!
- 日本ピアスタッフがあるからこそこの集いが続いているものと思います。お忙しい方々で運営されているので大変かと思いますが、とても大事な活動だと思います。
- ピアスタッフになりたい方へのサポートや求人情報を教えてください。
- この度は会場参加ができなかったのですが、抄録集送付等、お忙しい中にも関わらず丁寧に細やかなご対応をいただき、本当にありがとうございました。
来年度も開催予定がございましたら、今回参加の皆様には例えば、一斉メール等で開催のお知らせをいただけたらうれしいと思います。何らかの形でお知らせが届くようご検討いただけましたら幸いです。よろしく願いいたします。
- ピアスタッフの職能団体として、さらに活動を活発にしてもらいたい。
- 分科会には参加できませんでしたが、テーマがバラエティに富んでいて興味深かったです。
- 学習する機会を与えていただき本当にありがとうございました。

**アンケート結果以上となります。
アンケートにご協力下さったみなさま、
誠にありがとうございました。**



参加者からの感想・メッセージ

～第11回全国ピアスタッフの集いに参加しての感想～

せつと@神奈川県

「人と会うのが怖い」、「考えがまとまらない」、といった状態が顕著になりつつあり、11月から休職していた私です。私の休職期間中に開催されたピアスタッフの集い。東京で、しかも現地開催されるという話を聞いたときから開催を楽しみに待っていました。

いつもの自分であれば人との出会いの場に参加することにワクワクを感じ喜び勇んで参加したいと思うのですが、何しろ人が怖いといった状態になっているので、ピアスタッフの集いといった自分と同じような状況にある、志しているような人たちが集まる場であったとしても、参加することは非常に高いハードルでした。

そんなおっかなびっくりの状態での参加。迎えてくれた会場には黄色く見事に色づいたイチョウの木。ピアスタッフを取り巻く状況もここ数年でこのイチョウのように色づき始めているのでしょうか、なんてことも頭をよぎります。不安まじりの挙動不審な状態で会場に足を踏み入れた私ですが、そんな不安はすぐに吹き飛びました。

会場には見知った顔もちらほら、ありがたいことに私にお声かけしてくださる方もいらっしゃいます。分科会でも、休職している私の話も皆さんしっかりと受け止め共感してくださり、休職していることに対して抱えていた後ろめたさも軽くなりましたし、「ここにいてもいい」、「私を受け入れてもらえる」、といったようなあたたかい、安心感がありました。

今回のピアスタッフの集いのテーマは「なんどでも仲間にあえる、つながれる～共感の先にみえてくるもの～」、というものだそうです。まさに多くの仲間とであえ、つながることができ、共感してもらえる体験ができた時間であったのではないかな、また共感の先にはどんな人であってもおたがいリスペクトしあえる、そんなあたたかい世界がみえてくるのではないかな、なんてことを考えています。

私が本格的にピアスタッフとして仕事を始めてから7年、まだまだかけだしであると思っていましたが、今回私のことを知ってくださっているという何人かの方からご挨拶をいただきました。イチョウでいえばまだまだ芽吹いたばかりの新芽のつもりでしたが私も徐々に色づき始めてきているのかもしれません。

今後も何度でも仲間と出会い、つながりたいな、そしてその先にどんな世界が見えてくるか…
つながってくれた仲間たち、これからつながっていく仲間たちと一緒に共感の先の世界を見てみたいな、なんてことを思います。

第11回全国ピアスタッフの集いに参加して

～分科会5「ピアスタッフの価値と役割を考える～ピアスタッフが大切にしたいこと～」から想う希望～

支援員 内藤 昌宏

社会福祉法人舟伏 岐阜市超短時間ワーク応援センター

私には、精神疾患・障害の当事者であること、当事者家族であること、自死遺族であること、これらの当事者性があります。これらを開示した精神保健福祉士として就労支援に携わっています。

10年程前に、「障害を開示して精神保健福祉領域で働きたい」と思い就職活動をし、医療機関や障害者福祉事業所に応募を試みましたが、面接はおろか「障害者の雇用は考えていません」と応募にも至らないことが10件以上続き、「当事者性を開示して精神保健福祉領域で働くことは無理なんだ」と打ちひしがれました。あれから10余年、私は恵まれています。症状や生きづらさは依然あるものの、当事者性を開示して働き生計を立てています。

また、当時とは比較にならない程‘ピアスタッフ’が当事者の希望になっています。 (次頁へつづく)

参加者からの感想・メッセージ

(つづき)

前段が長くなりましたが、私が分科会5「ピアスタッフの価値と役割を考える～ピアスタッフが大切にしたいこと～」に参加した理由はここににあります。私には、「地域のなかで、ピアスタッフピアスタッフとして生計を立てられる仕組みを作りたい」そんな野望があります。そのためには、社会や地域、環境等への働きかけが不可欠ですが、ピアスタッフ自身にもピアスタッフの価値を担保していく必要があるとも考えます。具体的には、ピアスタッフというライセンスを確立することです。これは決して「当事者が精神保健福祉士等の資格を取得すること」だとは考えていません。しかし残念ながら、「誰が・何を・どうしたら」が全く思いつかず、すぎる思いで分科会5に参加しました。

分科会5に参加し、「ピアスタッフ大切にしたいこと(Ver.1)」の倫理要綱を知ることができたこと、多様な背景や役割を担う同志と意見交換ができたこと、これらに勇気づけられました。あまりにも壮大な野望のため、ときに押しつぶされそうになったり、あきらめそうになったりします。しかし、本分科会だけでなく、「全国ピアスタッフの集い」があることで、「独りじゃないんだ」ということを再確認できました。

今、暗闇のトンネルにいる方々に、支援を受けるだけではなく自分も誰かの役に立ちたいと考えている方々に、「私たち」が経験した悔しい想いをさせない仕組みを全国の仲間とともに構築したい、そんな自分の想いも再確認できました。末筆になりますが、本集いを開催して下さった、実行委員の皆さま、参加者の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

～第11回全国ピアスタッフの集いに参加して～

比嘉 寿

私は、沖縄県から参加した比嘉寿と申します。今回は、ジャネットさんのアテンドという形でピアスタッフの集いに参加しました。ジャネットさんの講義を聞いての感想は、私も含めて、聴衆の多くの方がかなり困惑したのではないかと思います。

講演会のテーマも“人権と権利擁護、そしてピアサポート”とかなり難しいと感じました。どのワードをとっても自分の中ではボヤッとしたもので、それについて学ばないととても咀嚼できないと思いました。それに加えて、「ピアワークとピアサポートは違う」という彼女の発言に一番困惑したと思います。前者はトレーニングを受けて、資格を持ち対価をもらって行うプロフェッショナルな仕事で、後者は特にトレーニングを受ける事や資格を要するものではなく、同じ消費者/当事者として共感し支えあう、対価を得ずに行う仲間としての関わりという説明でした。今回、海外からゲストスピーカーから希望と勇気を得て帰れるだろうと期待して聞いていたら、難しい概念とピアサポート、とピアワークが別物である、という内容に、「一体自分が今まで考えていた”ピアスタッフ”とは何なのか??」とかなりモヤモヤしたのではないかと思います。

しかし、このなんとも言えないモヤモヤ感が今回の講義の一番のお土産だったと思います。一旦頭の中はグシャッとしたかもしれませんが、ここからもう一度人権、権利擁護、ピアサポートを整理して、自分の中で咀嚼していくと自分の立ち位置が明快になっていくと思います。その一歩先に行く為に今回の講演会は最適だったと思っています。

後半の質疑応答で、滝山病院事件について、「同じ仲間としてやるせない気持ちがある、どうしたらよいのか!!」という声がありました。ジャネットさんの直接の解答は正確には覚えていませんが、確か「自分は定年退職してこの年齢になるまでまさかこの様に働いているとは想像もしていなかった。しかし、私は死ぬまで、同じ仲間が二度と治療という名のもとに非人道的な体験をしないようにできる限りの事をする。ある意味“情婦のように何でもやる!”」と言っていたと思います。

その“情婦のように”という表現が印象に残っています。その表現は、自分の身を挺して精神保健システムを変えていく!という強い覚悟なのだと思います。「自分の情熱の原動力は“怒り/アンガー”である」という言葉には多くの聴衆が共感していたと感じました。今回、ピアスタッフの集いに参加できて多くの学びがありました。実行委員の皆様、ジャネットさんありがとうございました。

参加者からの感想・メッセージ

～第11回全国ピアスタッフの集いに参加して～

おっきー@神奈川県

2023年12月9日～10日に約3回ぶり、4回目の参加をさせて頂きました。全国からピアスタッフの皆さんだけでなく、医療やサービスのユーザーや専門職も集まり、様々な意見交換などもできて有意義な時間でした。私個人としては、新たなつながりもできましたし、久しぶりにお会いする顔ぶれもあり、何だかほっこり安心感を覚えたのが非常に印象的でした。この安心感や居心地の良さに、ピアって良いなあと改めて感じました。全国のピアスタッフの集いは、新たにできたつながりも含め、参加した人それぞれが、それぞれの輪を広げていく機会になるのではないかなと思います。次回も楽しみにしています。

今回はJanet Meagherさんが来日され、苦勞されて作り上げてきたオーストラリアでの実際のお話も聞かせていただきました。制度の側面は別として、ピアスタッフの活動の根底にあるものは日本でも同じであるように感じました。ピアスタッフとして自身の経験をどのように還元していくかも大切であるというお話がとても印象的でした。ピアスタッフ自身の経験をいかした支援は、専門職にはないものです。経験したことは辛いことであるかもしれないけれど、支援をする際には強みになると思っています。Janetさんは、Peer Workerには当事者性とRecoveryの精神が必要であるとお話されていました。原動力はPassionとAngerであるとも。

私は専門職ではありますが、学生時代からピアグループに参加しながら当事者の方たちにたくさんのことを教えていただき、今があります。自身に病気の経験はありませんが、これまでに積んできた専門職としての経験を、少しずつでも当事者の方や社会に還元できるようにしようと、改めて強く感じました。良いことも悪いことも声に出して伝えること、伝えないこと、そのための仲間を作ること、作らないこと、人生生きていく中では様々な分かれ道があると思いますが、どれを選んででも自分の人生です。選んだ先で困難な事があっても分かち合える場がある、仲間がいる、その一つがピアスタッフの集いなのではないかなと感じました。

最後に、準備・運営をされた委員の皆さん、登壇者のみなさん、参加された皆さん、2日間お疲れ様でした。また来年お会いできることを楽しみにしています！

～実家に帰ってきた安心感がもたらしたもの～

東京都@そえぞう

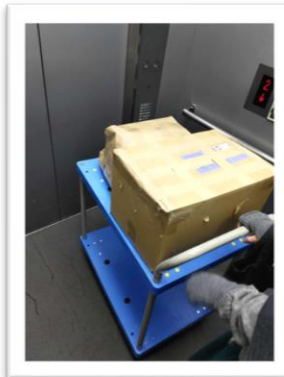
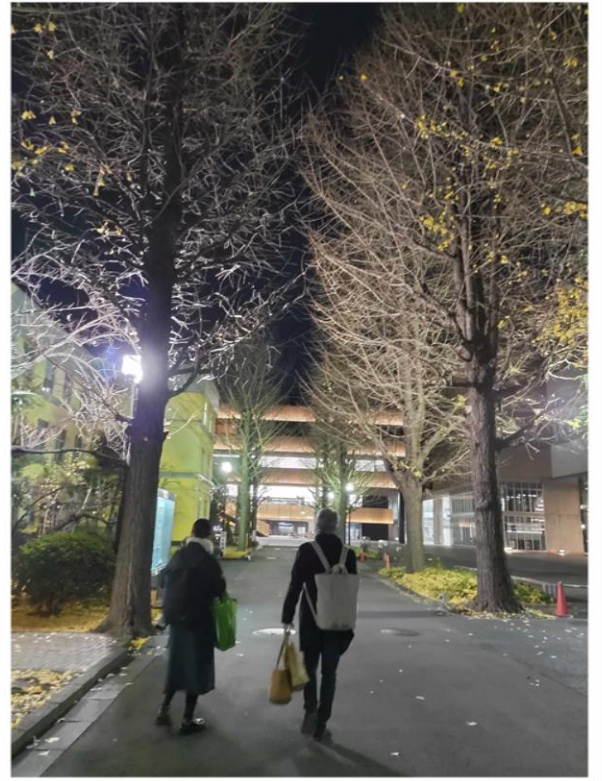
昨年末、はじめて全国ピアスタッフの集いに参加したのですが、なぜか「実家に帰ってきた安心感」をいただきました。「とても会いたかった人」、「会うのが気恥ずかしい人」、「会うと気まずいけど会いたかった人」などが混在していましたが、結果その人たちが実家に帰ってきた安心感をもたらしてくれました。それはピアという言葉一つでつながれる安心感なんじゃないかと思っています。とは言え、実家は安心感だけじゃなくてトラブルの巣窟ですし苦勞の総合デパートだったりします。それでもより良いつながりを求めて一生をかけて模索する場なのでしょう。また私には今回の集いに参加したもう一つの目的がありました。それは、国連勧告を受け厚労省が「非自発的入院」に関する検討会を立ち上げましたが、私は社会学班の一員として本人および家族のインタビュー調査を行うことになり、その調査に協力してくれる人を募ることでした。調査に協力していただいた方に心より感謝申し上げます。昨年NHKのTV番組が滝山病院の虐待死問題を世間に知らしめてくれました。私は長らくこの滝山病院が存在している東京都の多摩地域で活動をしてきましたが、自分事として捉えています。

さて、初日のジャネット・マラー氏の講演は「アドボカシー・リカバリー・ピアワーク」について考えるというもの。いわゆる権利擁護についてピアの視点から活動しているジャネットさん思いは明確で、我々が目指すべき方向を示して頂きました。また日本人が為政者から与えられた「人権」の捉え方と、人が生まれながらに持っている「ヒューマンライツ」という理念の下で活動している欧米型の権利擁護のあり方などを深く考えるきっかけをいただきました。

2日目は分科会2:ピアスタッフと専門職～「協働」ってなんだろう?～に参加しました。前半にピアスタッフと専門職との協働の実践報告を聞き、後半のグループワークを行いました。日本ピアスタッフ協会が設立される以前からピアスタッフと協働していた私にとって、このような環境があることに隔世の感を覚えつつも、抱えている苦勞は30年前と変わらない部分もあり、このテーマの奥深さを改めて知ることになりました。

まだ日本語には適切な言葉が見つからない「ヒューマンライツ」をどうすれば日本の文化として浸透させていくことができるか、「実家」に戻ったことで改めて気づきを得ました。

集い実行委員によるこぼれ話



実行委員として関わらせてもらったこの数ヶ月間、集い2日間のためにいろんなことを考えてきました。そしてこの過程を振り返ると、自分の苦手なこととも向き合って、周りの方々に助けられてきたことに気づきます。

2日間を考えるにあたり、どんなテーマだったらみなさんが集ってくださるだろうか、どんな分科会がいくつくらいあったらよいかしら、どんなチケットをいくらくらいでどんなふうに売りましょう…。こまかな課題や決めごとがいっぱいありました。今回改めて思ったことは、こういったひとつひとつを決めていかなければ前に進めることができないのだ、ということです。また、12月開催のためにはこの時期から広報をしたいから、それまでにチラシを作りたい、そのためにはいつまでにこれを決めなければ…というスケジュール管理も必要です。これらはわたしが苦手な「決定すること」や「継続していくこと」と関連していました。それでも、みんなでひとつひとつを決定し進めてきました。前回までの記憶や記録を参考にしていた私たちならではの集いを作り上げていくプロセスはとても創造的なものでもありました。

そんな中での印象的であった気づきは、当たり前が当たり前じゃないという当たり前のことでした。例えば、今回は申し込みをPeatixでのみ受け付けることにし、直前のご連絡もPeatixを通したメールでのやりとりさせていただきました。しかし、ネット環境が整わない方もいらっしゃるし、メールが得意でない方もいる。他にも、チケットの種類、そしてその表記の仕方について、これだとわかりにくい、これだと誤解しやすい、これだと間違いやすいかもしれない…。実行委員の間のやりとりではもちろんですが、参加をご希望する方からのお問い合わせで、自分では思いつかない角度からその自分の認識が当たり前ではないことに気づかせてもらえたことがたくさんありました。自分たちの認識が当たり前ではないことを認識したうえで、ではどうするのか。その先を実行委員のみなさんと考えられたのも貴重な時間でした。

振り返ると、縦ではなくて横のつながりを感じながら実行委員をつとめてきたように思います。しかしそれもご参加くださった方や応援くださった方がいなければ成り立たないこと。すべての方々に感謝の気持ちと、この集いのネットワークがこれからも広がっていくことを、お祈りしています。

青山 碧

実行委員の感想

あいうえお順

参加してくださった方、ご寄付をくださった方、ピアスタッフ協会のみなさま、実行委員のみなさま、ボランティアの方、ありがとうございました。実行委員として関わったことで、この2日がさまざまな方に支えられて開催されたことを実感しています。準備段階から当日、そして終わった後も「ピアスタッフ」をキーワードに新たな出会いやご縁が繋がっています。仲間っていいな、つながるっていいな、と思える素敵な機会でした。
(青山 碧)

実行委員を務めさせていただいてありがとうございました。ネットワークを広げることができて、とてもためになりました。分科会は3を担当しました。なりたてピアスタッフの話なので、私も他の登壇者も等身大で楽しく参加できました。一方で、ピアスタッフの集いに相応しい内容が提供できたか？参加者の皆様に満足していただけたか？という疑問は残っています。今後のピア活動にとっても役立つ経験でした。
(石村 徹)

このような素敵な会に関わらせていただき、ありがとうございました。準備・当日・事後も、どうしたらご参加いただく皆様にとって、参加したい！参加しやすいと思ってもらえるかについて考えた、とてもアットホームで思いやりに溢れる準備会でした。至らないこともあったかと思うのですが、当日は参加される皆様の笑顔が見られて嬉しかったです。また皆様と一緒に学び続けたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。
(金原 明子)

私自身はピアサポーターとして活動を始めてまだ日が浅く、経験も少なかったので、準備から当日までの全てが新鮮な経験だったように思います。そういった中でピアに関わる様々な立場の人に出会って、たくさん刺激を貰いました。最初にお話を頂いた時は「自分に務まるのかな？」と不安が大きかったのですが、色々な方々に助けて頂きながら最後までやり切ることが出来ました。皆さま本当にありがとうございました！
(清田 智也)

実行委員で会議を重ね、このような大きな大会を作り上げていくことは、大変やりがいのあるものでした。また、実行委員の中には私にとっては「初めまして」の方も多い中で、新しい繋がりが生まれたことはとても嬉しいことでした。今回このような貴重な経験をさせていただいたことは、私にとって大切な宝物です。参加者の皆様をはじめ、集いの全ての関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
(黒木 紀子)

実行委員会のメンバーとして、大会テーマ、企画からプレ企画、下見や準備、本番と、みんなの意見を結集して、コ・プロダクションの大会だったと思い、たいへん学ぶことの多かったことに感謝しております。1日目の公開講演会の参加者も多く、実行委員会の広報のおかげかと思えます。また、2日目の全体会、交流会は、とてもあたたかく活発且つ素敵な空間になっていました。分科会も参加しやすく、実行委員会の等身大で運営できたと思えます。講師のジャネットさんは、オーストラリアの仲間に盛会の様子をメッセージをされていました。誠にありがとうございました。
(坂本 智代枝)

ここでは、今回一緒に集いを作って下さった実行委員の皆さんに心からの感謝をお伝えしたいです。今年はピアスタッフの集いへの参加経験がない方にも沢山実行委員に入って頂きました。次に何をしたらよいか？など、掴みづらい部分も沢山あったと思うのですが、皆さんで協力しながら無事に終えることができたこと、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。今回のご縁を機に全国のピアスタッフ、ピアサポーターの繋がりが広がると嬉しいです！
(佐々木 理恵)

実行委員の感想

あいうえお順

集いへの参加もはじめての中でドキドキしながら実行委員に加えていただきましたが、皆様があたたかく迎え入れてくださり心強かったです。これまで長年にわたり、自分たちの手で仲間と共につくり、積み重ねてこられたことが、当日の空気感や「参加してよかった!」という声に繋がっているのだと感じています。このような機会にお声がけいただき、本当にありがとうございました。

集いのこれからも期待しています。

(里村 嘉弘)

実行委員会のメンバーのお声掛けして頂いたとき、そんなに深く考えずにフワッとした気持ちで引き受けました。実際に関わらせてもらいましたら、準備の段階からピアスタッフの集い当日まで貴重な経験をさせて頂きました。集い当日は、お会いした参加者同士の交流のご様子や、分科会でのピアスタッフへの思いについてお話を聞いていき、素敵な時間を皆さんと共有できて良かったと感じました。どうもありがとうございました。

(長嶋 美紀)

多くの方と交流する中で、さまざまな経験や考え方に触れることができ、私自身、実のある学びとなりました。ピアスタッフの将来を考えると、課題はまだ山積しつつも、その可能性は広く開かれていることを確かに実感しました。このような集いを機会にピアスタッフ同士が繋がることで、お互いの未来を切り開いていけたらと思いました。

今回の集いで出会えた方々との絆を大切に、今後も一緒に活動していけることを願います。

(西村 聡彦)

当日ご参加頂いた皆様、動画視聴をお申込み下さった皆様、ご寄付などでお心を寄せて下さった皆様、ボランティアの皆様、実行委員はじめ運営の皆様、本当にありがとうございます。

当日は参加できず残念でしたが、皆様のお力で、当日無事に、とても素敵な会が開催できましたこと、そして開催に微力ながら関わらせて頂けて、本当に有難く感じております。これを機にますます素敵な場や出会いやつながりが広がるといいなと思い願っています。ありがとうございました!

(真嶋 信二)

ピアスタッフの集いでは、実行委員会など会議での話し合い、夏のソロモン先生のプレ企画、そして12月のつとてい当日の運営等を通じて、多くの方とお話したり、何かに向かって力を合わせたりする機会をいただきました。お久しぶりの方とお会いしたり、新しい出会いがあったり、さまざまな考えや思いに触れて自分の視野が広がったり、頭も心も総動員で活性化したような日々でした。

どうもありがとうございました。

(宮本 有紀)

この場を借りて、参加者、実行委員、協会関係者、分科会(特に分科会1メンバー)運営関係者、ほか全ての関係者の皆さまに御礼申し上げます。私自身も含め(お互いに)、集い全体で、色々なことを学び、語り、分かち合えたと思います。

分科会について、運営メンバーも参加者も比較的ごんまりとした方だったと思いますが、準備の打ち合わせの段階から当日までごんまりなりの良さを再確認できたとかみしめています。

(山田 裕貴)

第11回全国ピアスタッフの集い 現地実行委員

あいうえお順 (★…実行委員長、※…事務局)

名前	所属
青山 碧 ※	ピアスタッフについて知ってこ!ぷろじえくと(略称:しっぷろ) 医療法人社団 たいける会 渡辺整形外科
石村 徹	支援センターアゼリア
金原 明子	東京大学 医学部附属病院 精神神経科
清田 智也	地域活動支援センターふれあい
黒木 紀子	国分寺すずかけ心療クリニック
坂本 智代枝	大正大学
佐々木 理恵 ★※	日本ピアスタッフ協会 東京大学 医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター ピアスタッフについて知ってこ!ぷろじえくと(略称:しっぷろ)
里村 嘉弘	東京大学 医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター
長嶋 美紀	地域活動支援センターふれあい
西村 聡彦	日本ピアスタッフ協会 ピアスタッフについて知ってこ!ぷろじえくと(略称:しっぷろ)
真嶋 信二 ※	一般社団法人 COMHCα
宮本 有紀	東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野 ピアスタッフについて知ってこ!ぷろじえくと(略称:しっぷろ)
山田 裕貴	所沢市保健センター

日本ピアスタッフ協会 役員

名前	役割	所属
磯田 重行	会長	株式会社 リカバリーセンター
眞嶋 栄	副会長	医療法人 学会会 木村病院
佐々木 理恵	副会長	東京大学 医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター
関口 明彦	監事	NPO法人ミュー ライフサポートMEW 地域活動支援センター
中田 恵美	監事	税理士法人コミヤマ会計 (税理士)
相川 章子	顧問	聖学院大学 心理福祉学部

※その他の役員については、現在協会の運営体制を調整中のため、掲載を割愛します。

以降

分科会資料集

分科会 I

「期待」と向き合い働き続けるためのセルフケア ～時には休職してもいいじゃん～

※分科会の中で話題提供下さった内容を原稿にしてくださいました。
なお、ご本人の掲載承諾を頂き、資料を載せています。

埼玉県鴻巣市にある生活支援センター夢の実でピアスタッフをしている高橋哲と申します。
ピアスタッフを始めて6年ほどになります。

始めたきっかけはその当時に埼玉県の聖学院大学で開催されたピアスタッフの集いにおいて実行委員の会議にたまたま出席することになり、そこで現在働いている法人の職員にさそわれたことでした。
当時はピアサポートやリカバリーということも聞いたことがなく初めてこういう世界もあるんだなあという感想を抱いた程度でした。

ピアスタッフとして働き始め、様々な講座や研修にでて学び、実際現場でピアサポートを実践し、同僚の職員、ピアスタッフ、ピアサポーター、利用者さんたちと共に過ごし関わることで少しずつですがピアサポートについての見識を深めていけているのかなと感じています。自分自身の中にはピアサポートの原体験として精神障害者バレーボールの活動があり、そこで人と関わることや居場所がある安心感、自分もありのままでいいんだと思えたことがなにより嬉しかったです。そこで仲間たちと支え合った経験が今でも生きています。

バレーボールを始める前は18歳から20代半ばまで引きこもっていました。入退院を繰り返して病状はどん底の状態でした。そんな時に障害者バレーボールとその仲間と出会ったことがリカバリーのきっかけです。その後ピアスタッフを始めてピアサポートと出会い、自分自身のリカバリーを振り返り、その後もリカバリーして行けたことを実感できたことはとても自信になり、自分を認めることができるようになりました。

ピアスタッフになってからは何をしたいかわからない事だらけでしたが、周囲の皆さんと一緒に役割を見つけることができ、やりたいこともできて仲間と共に取り組んでいくこともできてとても充実していました。自分自身の頑張りたいという期待や周囲から感謝されることで自己肯定感も上がり一層頑張ろうとも思いました。ですが、ピアサポートやリカバリーを日々実感していく中で自分自身の何かに違和感を覚えるようになっていく時期がありました。これはずっと抑え込んできたトラウマによるもので、周囲の仲間たちは自身の苦しい事辛いこと生きづらさをきちんと言葉にして思いを相談することで受け入れてリカバリーしていく姿を見ていくけれど自分とはなにか違う、自分ができなかったことだと思ったことから、自分自身の抑え込んで忘れていた家族関係での辛さを再認識してしまいそこから一気に体調を崩してしまいました。

これが2年ほど前のことです。あまり覚えていないことも多いのですが、体調の悪化を感じていても周りに相談することができず、休みの日はしっかり休むことやバレーボールでリフレッシュすることに努めていましたが日に日に状態は悪くなり、おかしいと感じてから2か月ほどたった時にもう仕事には行けなくなってしまい、休み始めてしまいました。休んだ当初はフラッシュバックや死んでしまいたいという考えが頭の大半を占めていたので仕事をこの先どうするかは何も考えられませんでした。その時に主治医からカウンセリングや入院を勧められました。カウンセリングは受け始めたのですが入院は嫌だったので自宅療養という形にすることにしました。

休み始めてしばらく経ってから上司と電話で相談してしばらく休んだ方が良いと言われ休職することになりました。休み始めてから1か月間はずっと苦しい状態であり睡眠や食事もとれませんでした。何もやる気が起きず誰も何も信じることができずただ引きこもっていたようになっていました。

ただただ苦しんでいる時間を過ごしていましたが、徐々に眠ることや食べることができるようになり少しずつ休息ができて、気持ちにも少しずつ余裕ができてきてたまに外出もできるようになりました。2か月たったころにはやっと死にたいと思う時間が減っていきこの先のことをかんがえられるようになっていきました。職場の同僚たちはしっかり休んで戻ってくるのを待っていると伝えてくれ居場所を確保してくれていて、温かく待っていてくれるのを感じました。辞めたいという気持ちはなく復職に向けて自分を回復させることに専念しようと思えました。

3か月の休職を経て復職することができ心身ともに充電されている状態に戻っていました。それからはカウンセリングで疲れやストレスとの向き合い方や自分の気持ちに気づくことや自分をいたわることを取り上げて話していき、自分の状態を把握できるように心がけました。週に1日は予定を入れず休息するようにして自分が心地よくいられる感覚、いい感じの自分を感じることができてそれを維持していけるような生活スタイルとセルフケアを取り入れるようにしていきました。

それから1年ほど自分自身と向き合い、自身を大切にすることに取り組みながら日々業務に励んでいましたが今年の4月ごろにフラッシュバックが止まらなくなり気の休まらない日々が続くようになりまた睡眠や食事が取れなくなってひどく疲弊した状態になり体調は最初に休職した時よりも悪い状態になってしまいました。繰り返し起きてしまうことへの恐怖や絶望感もとても強く感じました。特に希死念慮が強く受診もしばらく行かずかなり危ない状態だったと思います。その時に隣にいる藤原さんが連絡を取ってくれて話を聞いてくれました。おかげでその日死ぬのはやめようと思えたことが何度かあり、そうするうちに最悪の状態は抜け出すことができました。

2度目の休職となり、今回は戻れないかもしれないという気持ちが強かったです。受診やカウンセリングも受けてひたすら眠れるようになりやっと休養できるようになってからも気持ちはなかなか前向きになることができず2か月たって少し元気が出てきても戻れるかわからない、戻りたいという気持ちになれない状態でした。ですが藤原さんをはじめ職場の同僚たちが連絡をくれてやり取りをする中で、自分の根本的な問題や病状は良くなるはなっていないけれど、また元の生活に戻れるのも悪くないかもしれないと思ってから復職のことも考えられるようになりました。3か月の休職を経てまた復職することができ、深く考えずにとりあえずできる範囲でやれるところまでのんびり構えてやってみようと思いました。復帰してから利用者さんたちが喜んで迎えてくれて自分自身の弱い部分も含めて皆さんのロールモデルになれたらと感じました。

2度目の復職の後にはまた繰り返すかもしれないけれど今度はクライシスに陥る前にもう少し行動する事を意識しようと思っているところです。疲れはどうか、どのようなことを感じているのか、ストレスはどのくらい感じているのか、自分の気持ちはどうなのかなど日々自分の心と体の状態をチェックしてそれに応じてセルフケアもできる範囲で取り組むように意識しています。このようにして2度の休職と復職を経験しました。

周囲からの期待や自分自身への期待。それに対して思うようにいかなかったり、自分の中での違和感や時に感じる孤立感などの葛藤がありました。こういったことはピアスタッフをしていなければ感じることもなかったかもしれません。ですが気づけたおかげで自分自身と向き合い対話することができリカバリーが進んでいると思います。

これからも様々な葛藤や課題が出てくることかと思いますが、もっと周囲の力を借りながら、自分でもセルフケアを適切に行い穏やかで心地よい感覚を実感していい感じの自分を育てていきたいと思っています。

分科会2

ピアスタッフと専門職 ～「協働」ってなんだろう?～

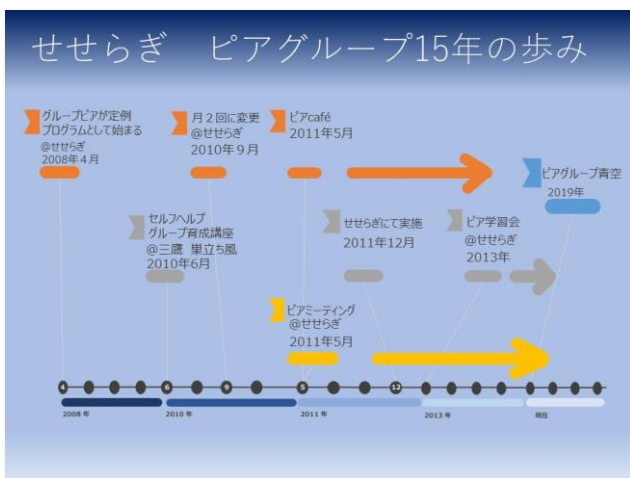
※分科会の中で使用したスライドの中から、掲載承諾を頂いた資料を載せています。



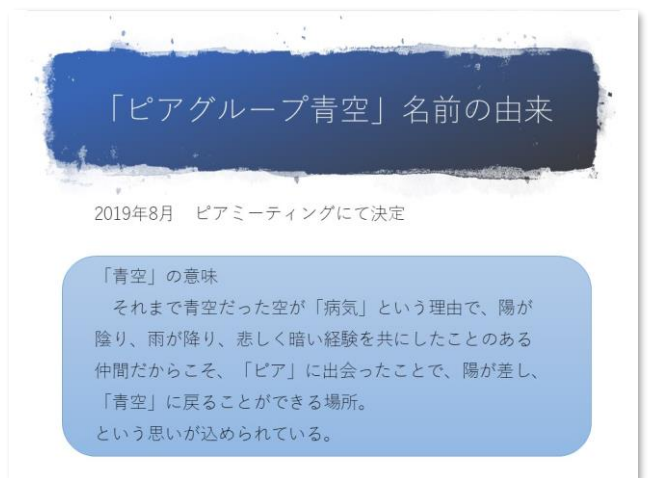
1



2



3



4

せせらぎのピアグループ

●日時 月3回、火曜日 15:30~17:00

●場所 せせらぎ オープンスペース

●内容 ピアcafé

ピア学習会

ピアミーティング

☆どなたでも参加可能です。

中野区外にお住まいの方でも大丈夫です。

お気軽にお声がけください(^^) /

せせらぎでは
「火曜日はピアがあるから
ね〜」「ピアの時間だ
から〜」など、「ピア
グループ」があることが定
着している！

5

ピアグループの流れ

- ①司会、タイムキーパー決め
- ②司会の進行に沿って、ファイルの読み合わせ
- ③その日のテーマの確認、トークテーマ決め
- ④トークテーマに沿って、分かち合い
- ⑤「おわりに」の読み合わせ

6

ピアcafé

お互いの話を分かち合い、
聴き合う時間です。

- ・話し合いの内容を参加者から募り、多数決で2~3テーマに絞り、ディスカッションを行います。
- ・内容は、障害や病気の事はもちろん、生活のことなどざっくばらんに話し合います。
- ・病気や障害、社会についてなど重いテーマを先に行い、楽しいテーマは後に行うのがピアグループ青空流です。



7

ピア学習会

参加者で決めたテキストを使い、
読み合わせ、オープンディスカッション
を行う時間です。

- ・現在は「リカバリーの学校の教科書精神疾患があっても充実した人生を送れます！」（著：飯野雄治、中原さとみ、リカバリーキャラバン隊）を使用しています。
- ・自分の気になる記事や詩などを持参して話し合うこともあります。



8

ピアミーティング

ピアサポートに関するイベント等の企画
や打合せを行う時間です。

- ・年に1度行っている「ピアカウンセリング講座」や、ピアグループ青空に関すること全般について話し合います。
- ・現在は、新規参加者の増加や、対外活動の際に周知することを目的にリーフレットの作成を進めています。



9

ピアカウンセリング講座

人と話し合う中で、
悩みや気持ちを共有して
自分の持っている力を引き出す
「ピアカウンセリング」
その方法を学びます。

- ・2日間にわたる講座になっています。年に1度（11月頃）開催しており、今年で14回目の講座を終えました。
- ・JHC板橋会の「ピアカウンセリング講座」をベースにしています。
- ・せせらぎのメンバーだけでなく、区民や学生の方も参加できます。



10

対外活動

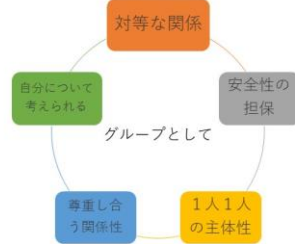
私たちの経験を伝えるに行きます。

- ・これまで、目白大学（人間学部人間福祉学科）、上智大学（総合人間科学部社会福祉学科）、東洋大学（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）にて講演を行ってきました。
- ・福祉を学ぶ学生さんに対し、職員、利用者、ピアスタッフなど、様々な立場での経験を語ります。



11

大切にしていること



12

せせらぎでの「協働」について

13

ピアスタッフとしての業務

- ・月1回のピアカウンセリング
- ・月3回のピアグループ運営
- ・地域移行支援での個別支援
- ・各種プログラムへの参加
- ・オープンスペースに出ること
- ・生活場面面接
- ・麻雀
- ・事務作業
- ・雑務
- ・講演活動

14

林の場合

- ・月1回のピアカウンセリング→面接相談
 - ・月3回のピアグループ運営
 - ・地域移行支援での個別支援→担当外
 - ・各種プログラムへの参加→運営
 - ・オープンスペースに出ること
 - ・生活場面面接
 - ・麻雀→打てない
 - ・事務作業
 - ・雑務
 - ・講演活動
- + ・電話相談

- ・行っている業務は齋藤さんとほぼ同じ。
- ・ただ、守備範囲が違うだけ。

15

例えば...

ピアグループの運営

齋藤さん...グループ全体のファシリテート

林...齋藤さんのバックアップ
せせらぎ職員としての発言
精神保健福祉士としての発言

共通...メンバーのフォロー
自分の意見を言う

- ・齋藤さんは職場の先輩。
- ・色々教えてもらいながら今の役割分担の形ができた。
- ・毎週のグループ終了後に振り返りを行う中で、コミュニケーションを沢山取ってきた土台が今の関係性につながっている。

16

現在の取り組み①



- ・ピアレターグループの始動
- ピアグループ青空のメンバーと精神科病院に入院中の方が「手紙」を通して互いに経験を分かち合い、支え合える仲間を目指す。
- メンバーがピアサポーターとしての経験を始める場がないこと、入院中の方がピアサポートを感じられる機会がないことへの気づきがきっかけだった。

17

現在の取り組み②



- ・中野区ピアサポーター総会の開催
- 中野区精神障害者地域生活支援拠点事業 IPPUKU主催で開催した。
- 支援者に対し、当事者が自分のピアサポート活動を知ってもらえる場をつくることで、ピアサポートの有効性を広め、次へのきっかけづくりができるのではないかと考え、企画した。
- 今年度も1月に開催予定。

18

協働への土台づくり

ピアサポーターが職場や専門職へ望むこと①

- ・病気、障害への理解
- ・人として尊重してくれること
- ・ピアの専門性への理解
- ・職員として対等に接してくれること
- ・役割や責任を持たせてくれること

出典：東京都障害者ピアサポート研修専門研修テキスト
ピアサポーター、ピアスタッフへのアンケート

19

協働への土台づくり

ピアサポーターが職場や専門職へ望むこと②

- ・調子が悪い時、就労時間を短くしてくれること
- ・通院を保証してくれること
- ・働く上で必要な知識・スキルの助言
- ・精神的に負担が大きい業務からの除外

出典：東京都障害者ピアサポート研修専門研修テキスト
ピアサポーター、ピアスタッフへのアンケート

20

日々の実践で大切にしていること

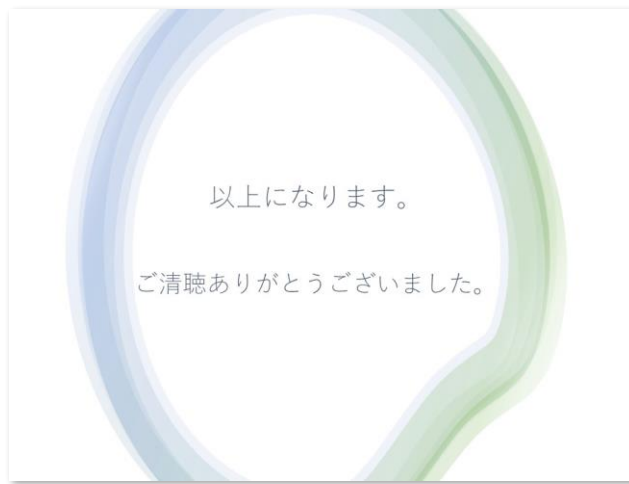
- ・いつでも相談できる環境づくり
- ・ピアとしての意見の言いやすさ
- ・適度な気づかい
- ・自分のペースで働く
- ・お互いの専門性の尊重
- ・コミュニケーションをよくとる

21

林の場合

- ・精神保健福祉士として～先輩たちから学ぶこと～
- ピアサポートは新しいことではない。
- 支援者としての視点。
- 当事者はサービスを利用するだけの存在ではない。
- ・ピアサポートを魅せていく
- 伝わり方は色々ある。
- 良く魅せるためには日頃のかかわりが出る。
- ・当事者なら誰でも一緒に働けるわけじゃない
- 馬が合う、合わないは当然ある。
- 「支援者だから」と当事者に対して思いすぎるのは、支援するされるの関係から抜け出せなくなる。

22



23

ふれあいの協働について
 ～この一年を振り返って～

—— 地域活動支援センターふれあい ——

清田 智也(ピアサポーター) 長嶋 美紀(センター長)

24

～はじめに～
地域活動支援センターふれあいの紹介

- ・場所 渋谷区
- ・スタッフ 常勤3名(あと1名募集中!) 非常勤1名(ピアサポーター)
- ・登録者 87名(R5年10月末) 渋谷区在住の精神障がいの方が対象
- ・特色 プログラムが多彩(12プログラム+季節行事や学習会等)

25

ふれあいって渋谷のどこにあるの?

- ・渋谷の端っこにあります!
- ・元気な商店街、庶民的な地域
- ・生活保護受給者が暮らしやすい

26

清田さんにバトンタッチ

27

はじめに～発症からこれまで～

- ・中学時代からかわれた経験→人の視線が気になる
- ・15歳 高校入学4日目で不登校になる→心療内科に通い始める
- ・16歳 別の高校を受験し入学するも、半年程度で再び不登校になる
- ・19歳 主治医から巣立ち会の生活訓練事業所を紹介される→生訓の利用開始、三鷹リカバリーカレッジに参加

28

はじめに～発症からこれまで～

- ・21歳 高校卒業程度認定試験(旧大検)合格
- ・22歳 大学入学
- ・23歳 Color卒業
- ・25歳 大学卒業、社会人としてクローズで働き始める
- ・27歳 体調を崩し入院→退職
 巣立ち会の就労移行支援事業所 利用開始
 再び三鷹リカバリーカレッジに参加
- ・29歳 就労移行支援 卒業→就労定着支援へ
 渋谷区にある地域活動支援センターで
 ピアサポーターとして勤務→現在1年が経過

29

どんなきっかけで ピアサポーターになったの？

- ・元々ピアサポーターを目指していたわけではなかった
- ・就労移行支援の利用、リハビリカレッジへの参加
→自分の体調を整えて、就労の準備をする為



「あなたの経験、ちょっと話してみない？」



「人の話を聞くのは好きだけど、自分が語ってもなあ・・・」
人前に立つの苦手だし・・・」

30

どんなきっかけで ピアサポーターになったの？

- ・とりあえずやってみよう、何かしら得られる物があるかも
→嬉しい反応や言葉をたくさん頂いた
- ・仲間の語りには何度も救われてきたけど、自分の語り
が誰かの背中を押せるなんて！！
- ・これがピアサポーターとして働く事を考え始めたきっかけ



31

どんなきっかけで ピアサポーターになったの？

- ・リハビリカレッジのボランティア
- ・WRAP (元気回復行動プラン) のファシリテーター研修



「別の事業所でWRAPのお手伝いしてみない？」

→これが「ふれあい」との出会いでした



- ・とはいえ、働くことになるとは思っていなかった
- ・「チャレンジ」と「偶然」の積み重ねが今に繋がったのかも

32

職場での役割

- ・プログラムの調整、参加
- ・行事イベントの企画
- ・ブログ、広報誌、目安箱
- ・交流室での雑談、電話相談
- ・メンバーさんと専門職の「橋渡し」ポジション



(になりたい!!!)

33

とても助かっている事 ～協働する中で～

【面接の時にお願ひした配慮】

- ①人への相談が苦手なので、月に1回面談の場を設けて欲しい
- ②電話対応で緊張しがちなので、少しの間様子見したい
- ③環境の変化で体調を崩しやすいので、週3勤務から始めていきたい

- ・入職時に理解して貰えたことはとても大きかった
- ・センター長だけでなく、他の職員にも伝わっていた
→円滑に職場に溶け込めた



34

とても助かっている事 ～協働する中で～

【実際に働き始めてから】

- ・意見を出しやすい雰囲気
- ・役割が明確化されている
- ・それぞれの得手不得手を踏まえての役割分担



- ・それぞれ抱えている役割は違うけど、一緒に創っていく
(例) 行事イベントはAさんと、プログラムはBさんと・・・
→餅つきをしているような感覚???

35

これからの課題 ～協働する中で～

- ・話したい事、伝えたい事を飲み込んでしまう場面もある
「こんな事言っているのかな・・・」
「自分なんかがおこがましいよな・・・」
- ・職場の体制が変わった時、どうする？
- ・「協働」をメンバーさんにどう活かしていく？



36

ご清聴
ありがとうございました



37

分科会3

なりたてピアスタッフの純真な気持ちを語る

※分科会の中で使用したスライドの中から、掲載承諾を頂いた資料を載せています。

分科会3 なりたてピアスタッフの 純真な気持ちを語る

1

進行概要

1. ガイダンス
2. まずお伝えしたいこと
3. 登壇者の自己紹介
4. 勤務して感じること
5. ピアスタッフになりたい人からの質問
6. 我々から伝えなかったことのまとめ
7. 会場からの質問

2

ガイダンス

3

まずお伝えしたいこと

1. 分科会の趣旨
2. ピアサポーター、ピアスタッフという言葉
3. ピアスタッフの経験年数の意味
4. 登壇者の想い

4

登壇者紹介

1. 石田 貴紀さん
2. 天田 由紀子さん
3. 高田 晴江さん
4. 石村 徹さん

5

登壇者の自己紹介

1. 石田 貴紀さん
2. 天田 由紀子さん
3. 高田 晴江さん
4. 石村 徹さん

6

勤務して感じること

1. 入職前後の認識の違い
2. 上司・同僚との人間関係
3. 利用者さん/患者さんとの関係
4. 支援される立場から支援する立場に変わることによる自分の変化
5. 職場に求めること/理想の職場とは

7

ピアスタッフになりたい人からの質問

1. どんな人がピアスタッフに向いていますか？
2. ピアスタッフになった経緯は？
3. 勤務の条件(勤務時間、金銭、業務内容)は？
4. ピアスタッフのやりがいは？

8

本日の話のまとめ

1. まずお伝えしたいこと
2. 登壇者の自己紹介
3. 勤務して感じること
4. ピアスタッフになりたい人からの質問

9

質疑応答

10

最後に

登壇者からのメッセージ

ご清聴ありがとうございました

11

ご参加・ご清聴
ありがとうございました

12

分科会4

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること ～日常の身近な権利について考えよう～

※分科会の中で使用したスライドの中から、掲載承諾を頂いた資料を載せています。

第4分科会

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること
～日常の身近な権利について考えよう～

1

分科会のタイムスケジュール

- 13:00～13:10 開会の挨拶 趣旨説明
- 13:10～13:50 話題提供者
 - ①坂本智代枝
 - ②櫻田なつみ
 - ③田村大幸
- 13:50～14:00 質疑応答
- 14:00～14:10 休憩
- 14:10～14:50 グループワーク
- 14:50～15:00 グループ発表・まとめ・閉会

2

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること
～日常の身近な権利について考えよう～

話題提供 ①

坂本智代枝(大正大学)

3

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること
～日常の身近な権利について考えよう～

アドボカシーとは何でしょうか？

- 自分にとっての「大切なもの」「必要なこと」
- 自分で「自分のたいせつなものを」自分の声をだしていく。
- ピアの「大切なもの」をともに考えること
- ピアの声を出すことへのサポート



- 自分が「いやだなあ」「モヤモヤするなあ」ということにきづく
←我慢するのではなく
- みんなで話し合うことができるといいなあと思っています。

4

個人の権利憲章(Mary Ellen Copeland)

配布資料より

Q1 あなたが大切にしている権利はどれですか？

Q2 その権利が侵されそうになった時にどうやって「自分の声」を出していますか？

5

ニューヨークと日本の調査から

初年コリ二間の関係のイメージ図



6

マイクロレベルのピアアドボカシー

⑤【意思の形成の後押し】

コード(例示)

- 〈経験値からの意思の形成〉
- 〈経験する時間を重視する〉

⑥【意思の表明の後押し】

コード(例示)

- 〈主体的に意思を表明できるまで根気よく寄り添う〉
- 〈主体的に意思を表明するための情報提供〉

7

メゾレベルのピアアドボカシー

⑦【セルフアドボカシーの学習】

コード(例示)

- 〈権利条約の学習機会の提供〉
- 〈日常生活における自身の権利の発掘〉

⑧【組織への働きかけ】

コード(例示)

- 〈ピアサポーターの役割の効果を伝える〉
- 〈保健医療福祉サービスに対して粘り強く交渉する〉

8

マクロレベルのピアアドボカシー

⑩【政策への提言】

コード(例示)

- 〈政策の意思決定プロセスに参加〉
- 〈体験したからこそ必要なサービスを開発する〉
- 〈事業計画の策定を通して事業化〉

9

グループワーク

以下の2点について話し合ってみてください。

- ①自分にとっての「大切なもの」「必要なこと」はなんですか？
- ②ピアにとっての「大切なもの」「必要なこと」をまもるためにできることはなんですか？

10



「ピアスタッフとして大切にしたいこと」

リカバリーを応援したい

令和5年12月10日
就労移行支援事業所こねくと
施設長 田村大幸

11

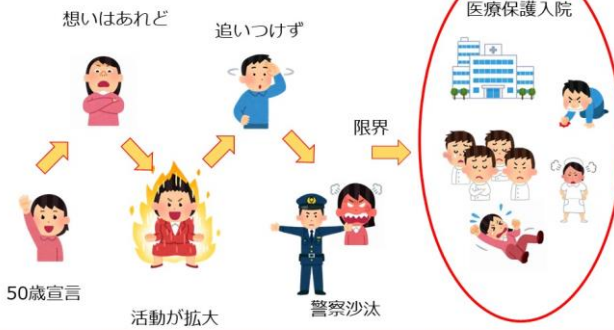


①母親のリカバリー



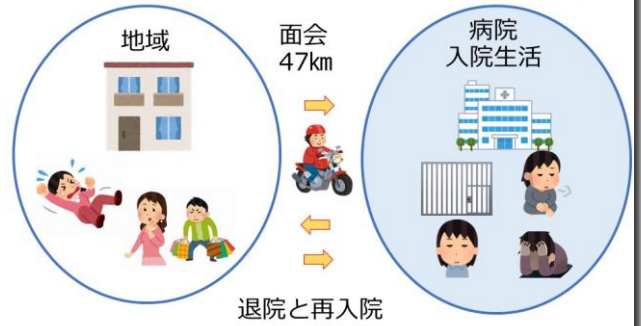
12

母が医療保護入院に至るまで



13

入院から退院、入退院



14

「田村さん、短時間でもいいから、また仕事を手伝ってよ」



15

地域での仕事/役割はリカバリーを促進する



ストレングスは、個人と環境の両方にあるもの



16

②わたしのリカバリー



17

困難からくる孤独感



自分で壁を作ってしまうことはありませんでしたか？

受験の失敗、就活、ケガ、大切な人をなくす。。

障害がある人
仕事がない人
居場所がない人

壁

障害がない人
仕事がある人
居場所がある人



18

たまたまつながった就労移行で 話せる環境や居場所に**希望**を感じる



ピア

**体験
共感**



ピアスタッフ

19

リカバリーの要素もさまざま



いろいろな仲間

自分が知らな
かったことを
教えてくれた
方々との**出会い**

希望

・私の場合
WRAP

おたがいさま

いっぱい**助け**
もらった。
少しずつ返して
いきたい。

サポート

自分らしさ

あるがままで
いい。人と比較し
ないで、自分ら
しく生きたいな

**主体性
権利擁護**

**学び
シェア**

弱みを強みに

悪いことばかり
じゃない。
この**経験**を活かせ
たらいいな
就労支援員!?



20

③就労移行支援事業所こねくと



21

母親が働くことでリカバリーを
してきたことを知っている

自分が働くことができなくて苦労したが
リカバリーして働いた経験がある

リカバリーを信じられるのが自分の強みかもしれない



22

人と **つながる**
仕事と**つながる**



就労移行支援事業所こねくと

23

こねくと の4つの特徴



～お互いを尊重し、誰もが安心できる場～

コミュニケーション

安心してコミュニケーションができる環境を整え
ます。スタッフ、メンバーの立場を超えて、お互
いを大切にすることを築きます。

ピアサポート

働きたくても働けないことは本当に辛く、孤独で
す。だからこそ同じような経験をした仲間とのつ
ながり、分かち合いを大切にしています。

リカバリー

外出体験プログラム

企業見学、スポーツやバーベキューなどの課外活
動を行います。人・仕事・地域とつながる機会を
提供し、仲間と協働することを学びます。

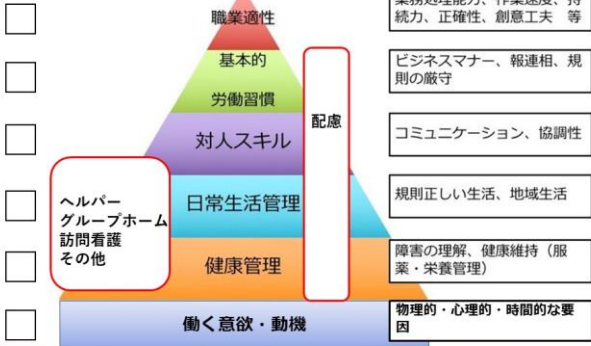
グループワーク

グループワーク中心のプログラム構成。仲間との
対話を通して、自己理解・他者理解を深めます。

こねくとは「**尊重**」「**安心**」「**対話**」を大切にします。
そして「**挑戦**」「**振り返り**」により「**主体性**」を身につけます。

24

就労準備性ピラミッド



25

応募書類



①やりたいこと・動機	自分のやりたいこと・成功とは何か
②自分の特性	現状把握・課題の整理
③対処法	自分なりの工夫・自分ですること
④お願いしたい配慮	サポート・周りをお願いすること

整理された応募書類を、企業に提供することでマッチング

26

④ピアの権利を大切にすること



27

リカバリーのきっかけ作り



メモを取らせてください
共有してもいいですか
本当はどうしたいですか

スピードを合わせる
キャッチした内容を確認
自分の経験を差し出す
説得ではなく納得
一緒に考える

「尊重・安心・対話」を大切にしてお互いの本音が言える環境に

28

三者面談など



ご本人に答えてもらってもいいですか？

私の時は〇〇と
本音を言えませんでした。

ご本人のチャレンジを
応援しませんか？

本人の想いを応援する・環境調整する

29

ミーティングでの意見のやりとり



課題だけに注目しない。
本人のストレングスは
こんなにありますよ。
私だったらこう思います。
その話は本人に
確認すべきだと思います。

本人に意見を聞くこと、確認することを促す

30

プログラムの進め方



平易な言葉を選択する
見通しを伝える
イラストを活用して
イメージしやすくする
手元資料を提供する

相手が受け取れる球を投げる・環境をつくる

31

仕事の選び方



マッチングはやってみないとわからない。固定概念の怖さ
職業選択の自由 挑戦（成功・失敗）からの気づき

32

私の考えるピアスタッフの役割



安心感と本音
きっかけ作り
障害ではなく本人に焦点

甘えか障害か
負荷と成長
挑戦の機会を
リカバリーの道へ

23

33

リカバリーとは



リカバリーは、希望が実現された状態を指すのみではなく、そこに向かって歩を進める**プロセス**をも含む概念です。時には迷い、立ち止まったり、逆戻りしたり、そんな決して直線的ではない人生の歩みも、リカバリーの旅路です。リカバリーはふところの深いものです。

誰かに助けられてもよいのです。
大切なことは、
**その支援が自分の足で
歩むためのものであることです。**



34

2023/12/10 第11回全国ピアスタッフの集い 分科会4

自分の権利をまもることと仲間の権利をまもること
～日常の身近な権利について考えよう～



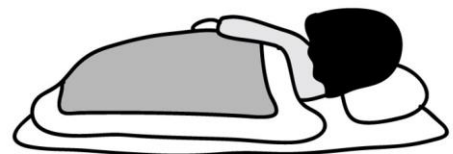
株式会社MARS 就労支援事業所co opus 櫻田 なつみ

35



櫻田なつみ 統合失調症

持続性注射剤 使用



14歳で不登校になり、精神科初診、19歳、
統合失調症と診断され服薬開始、大学入学
するが中退した。
何もしたくない、人と関わりたくない
と寝ていることも多かった。

36

母を振り回し、暴れたり泣き叫び暮らした。親子でひだクリニックにつながり、日々…当事者研究では親子の関係を研究する。毎日毎日が、親子の格闘…デイケアも嫌いという状況で「働きたい」と就労支援を受ける



37

2009年 都内の会社へ障害者雇用枠で就職するが、「行きたくない」と母を困らせ、会社の近くまで送ってもらって生活をしていた



38

2011年 1月 ついに退職しひきこもる会社も行けなかった…でも、デイケアは嫌そんなひきこもり生活が3ヶ月続いた。そんなある日、訪問に来てくれた。



39



2011年 4月 デイケア再開
現在セントラルパーク・ブーケにて、仲間と楽しく過ごせるようになり
SA(ほっ時計クラブ)や子育てグループサポート(ひまわりキッズ)のリーダーとして役割をもらい元気になっていった

40

ピアサポーターとして働きたい!

2011年10月 株)MARS入社
2012年6月 多機能型事業所支援員
2014年6月 グループホームmy夢 世話人として、週5日の正職員として勤務している



41



現在は・・・

- ・就労支援事業所co opusにて、ピアサポーター、サービス管理責任者として勤務。就職を目指しているメンバーのサポート、定着支援が主な仕事。
- ・ひだクリニックデイケアるえかの就労担当も兼務。
- ・一般社団法人日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構 理事
- ・千葉県障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員
- ・厚生労働省 成年後見制度利用促進専門家会議 委員
- ・千葉県 地方精神保健福祉審議会 委員

など

42

(株)MARSは、医療法人社団の宙委会グループの株式会社で、千葉県の北西部の流山市を中心に活動。

最近では東京都内（豊島区、中野区、板橋区）のグループホームも運営するなど活動範囲を広げています。



(株)MARSってどんなことしてるの？

医療関係支援事業

- ひだクリニックの
 - ・訪問看護・往診の同行
 - ・同行受診支援
 - ・デイケアピアサポーター業務
 - ・持効性注射剤クラブの運営
 - ・事務勤務
 - ・広報担当請負
 - ・清掃業務

食品・カフェ経営業務

- ・カフェオリゾンテ
流山セントラル駅前
- ・ドックフレンドリー
カフェBuona 8 2
豊松駅前

不動産業務事業

- ・一人暮らし支援
不動産会社との連携・アパート転賃
- ・ビル管理経営
自社物件3件
ひだクリニックのビルもMARSオーナーです

人材開発 研修支援事業

- ・ひだクリニック研修
請負
- ・ピアスペシャリスト養成
- ・「働くピアの学校」
- ・ピアサポート活動

出版及び企画開発事業

- ・心理教育教材
多々方式心理教育DVD、テキスト、紙芝居
- ・出版物販売

精神保健福祉事業

- 多機能型事業所 マーレ
- 就労支援事業所 就労継続支援B型事業所TERRA
- 自立生活援助 m y 夢
- グループホーム アパルフェ

株式会社MARS 沿革		
2008	8	ひだクリニックデイケア就労プログラムとして「森のパン屋さんCIELO」発足
2009	5	「森のパン屋さんCIELO」の一部メンバーを社員とし、(株)MARS設立 ひだクリニックデイケアにて業務委託におけるピアサポート開始
2011	5	リカバリーキャラバン隊結成。ワゴン車・ダイモス号で、1年間をかけて全国27ヶ所の精神科病院等にて心理教育を実施
2012	6	多機能型事業所マーレ開所。
2013	9	就労継続支援B型事業所TERRA開所
2014	6	グループホームm y 夢開所
2015	1	千葉県精神障害者ピアサポート専門員養成研修受託
2016	9	就労支援事業所co opus 開所
2017	5	生活介護事業所そにあ開所
2019	4	自立生活援助m y 夢開所
2019	11	精神障害者リハビリテーション学会 第12回ベストプラクティス賞受賞
2020	9	COMHBO 第15回 精神障害者自立支援活動賞（リカバリー活動賞）受賞
2021	9	働くピアの学校開校（月2回、全12回） （全国初の精神障害者向けのオンラインでのピアサポーター養成講座）
2022	11	グループホームアパルフェ豊島・中野 開所
2023	11	グループホームアパルフェ板橋・アパルフェ蒲田 開所

宙委会グループ（令和5年10月現在）

医療法人社団宙委会

- 2005年12月 ひだクリニック
- 2010年6月 セントラルパーク
- 2010年8月 ひだクリニック
- 2011年4月 訪問看護ステーションすびか
- 2011年4月 訪問看護ステーションすてら
- 2020年8月 ひだクリニック
- 2023年4月 お台場
- 流山市 指定相談支援事業所アファレ 2014年4月

株式会社MARS

- 2012年6月開設
多機能事業所 マーレ（定員20名）
生活訓練（訪問支援も含む）就労継続B型
- 2013年9月開設
就労継続支援B型事業所TERRA（定員20名）
- 2014年6月～2023年2月
グループホームm y 夢
- 2022年11月開設
グループホームアパルフェ
（豊島7名、中野9名、板橋10名、蒲田5名）
- 2016年9月開設
就労支援事業所co opus（定員20名）
就労移行・定着支援・生活訓練
- 2017年5月開設
生活介護事業所そにあ（定員20名）
- 2019年4月開所
自立生活援助m y 夢
- 2022年6月開設
合同会社WARP
ドックフレンドリーカフェBuona 8 2

(株)MARSピアサポーターの役割の一例

サービス管理責任者

権利擁護・ニーズの確認
経験しているからこそ
のわかりやすい制度説明や
利用法の助言

デイケアスタッフ

共感・目標・希望・
仲間づくり
症状の自己対処助言
医師や薬との付き合い方
の助言

相談支援事業

権利擁護・ニーズの確認
経験しているからこそ
のわかりやすい制度説明
や利用法の助言

**自立訓練・生活介護
生活支援員**

生活困難さの深い共感
生活面の工夫の助言
共感・目標・希望・
仲間づくり

職業指導員

過重な負荷がかかった時の
見極めや対処法の助言
働く上での苦労の共有

講演会

目標・希望
啓発活動
きっかけづくり

グループホーム世話人

生活困難さの深い共感
プライベートな生活課題
のサポート

訪問支援員

実体験での苦労の共有
同じ経験者同士にしか
わからない感情の構築
早期の信頼関係の構築

※専門職との協働
疾患の経験者を含めたチ
ーム支援を行うことで、権利
擁護にも影響があると思
えている。

経験者として視点で、リカ
バリー体験を活かした助言
や共に行動をする支援

櫻田のピアサポート活動

<デイケア (TRAM) >

- ・メンバーとの雑談
- ・プログラム運営、プログラム運営のサポート
- ・面談
- ・（あれば）記録入力
など

<co opus>

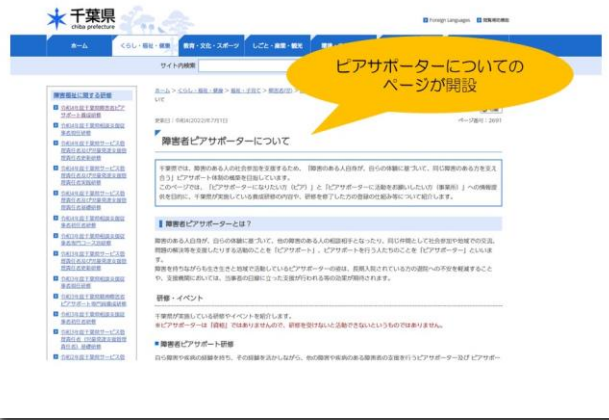
- ・プログラム運営
- ・メンバーとの雑談
- ・作業訓練での指示出し
- ・日報のコメントを書く
など

平成28年3月29日の
千葉日報に掲載。

精神障がい者支援
自立への試み

千葉県知事認定
千葉県ピアサポート
専門員養成研修

これからの精神科医療は、
ピアサポーターと一緒に働
く時代になっていこう。
医師も、チームの一員とし
て、地域での医療展開が求
められている



千葉県障害者ピアサポート研修

- ・基礎研修：2日間
専門研修：2日間
フォローアップ研修：2日

合計6日間

- ・実習：80時間
自身が所属している事業所や他法人の事業所、医療機関にて
実習を行います。

実際の現場の雰囲気を感じていただいたり、
実習後に就職に結びついたりしています



2021年9月、株式会社MARSの新たな事業が始まった・・・



<https://mars-spacewheat.jp/peerschool/>



一読み込んでいただくとサイトに
ジャンプいたします



開催形式: オンライン(ovice)使用

講義室で全体に向けて講義、
後半は各カラーのテーブルに
集まってグループワークを
行いました！



講義・グループワークの様子



各テーブルに集まり、ファシリテーターを中心にグループワークを進めていました。カメラをオンにすることで、顔を見ながらグループワークをすることができます！

講義の時は、講義室に全員入り1時間の講義を聞きます。この後に各テーブルに集まりグループワークを行います。

55

ピアとしての工夫と葛藤

- できること、できないことを明確にしています。
⇒相手に共感することも大切ですが、自分のことも大切に。
⇒バウンダリーを意識する場面も多いです。
- 疲れたら休む。
⇒自己管理をしながら、仕事の量も調整しつつ・・・。
- 合理的配慮、配慮をメンバーと一緒に考えています。
⇒なんでも合理的配慮として求めるものではないけれど・・・。
⇒合理的配慮が必要な事柄と一緒に整理しています。

メンバーに伝えること、一緒に考えることを意識しながら日々過ごしています



56

ピアと権利擁護

- ここで事例を一つ・・・
- グループホームの世話人をしていた時、「自分は何をしりたいのでしょうか」と、とあるメンバーが話していました。
- その方は、何をすることも自分で決めることができず周りに言われたことを全部やろうとしたり、周りの意見に流されてしまうことが多々ありました。
- でも、やりたいくないことはやりたくないと思っていることもありました。

いっぱいいっぱいになって行方不明になり警察に捜索届を出したこともありました（箱根から自分でタクシーで帰ってきました）



57

ピアと権利擁護

- 「私は〇〇するといいますが、最終的に決めるのは自分だと思えますよ」と伝えました。
⇒自分の経験を基にアドバイスなどをしますが、最後までどうするかを決めるのは自分、だということを明確にしました。
- 決められない時は、時間がかかってもいいことを伝えました。
⇒急いで決めようとせずに、自分が納得できる決定ができるまで待つことを約束しました。
- 周りに流されそうになった時は、それでいいのか一緒に考えました。
⇒今決めなくてもいいことを伝えました。

自分のことをなかなか決められない
⇒意思決定支援が必要
意思表明をどうしたらいいのか悩みました



58

ピアができる権利擁護

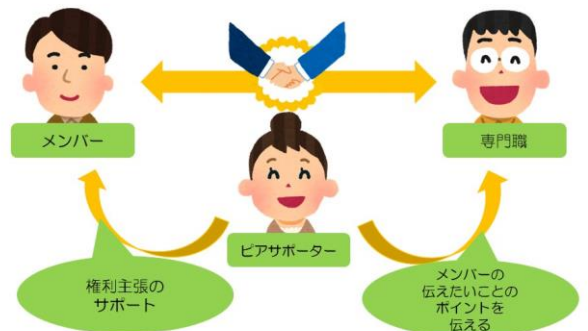
- 自分の経験を基に、やりたいことに向かっていくためにどのような権利を使うことができるのかを一緒に考えることができます。
- 専門職とメンバーの意見が違う時に、お互いの意見を聞きながらメンバーのやりたいことができるように調整していくことができます。
⇒どちらか一方の意見を聞くのではなく、お互いの思いを聞き着地点を見つけるサポートすることができます。

メンバーのやりたいこと達成のためにピアは何ができるのか、考えていく必要がありますね



59

ピアができる権利擁護



60

権利について思うこと

- 自分たちの権利を主張することはとても大切なことだと思います。
- 一方的に主張するのではなく、相手のことを考えることも大切なことだと思います。
(一方的だと良い関係を築くことができないので・・・)
- ビアが権利をまもることってどういうことなのか、日々悩んでおりこれで良かったのかな、と思うこともあります。
- 自分なりの権利のまもり方を模索しながら、それをメンバーにも還元できたらと思っています。

権利って奥深いなあ・・・



61

ご清聴ありがとうございました



62

分科会5

ピアスタッフの価値と役割を考える ～ピアスタッフが大切にしたいこと～

※分科会の中で使用したスライドの中から、掲載承諾を頂いた資料を載せています。

第11回全国ピアスタッフの集い

分科会5

ピアスタッフの価値と役割を考える ～ピアスタッフが大切にしたいこと～

2023年12月10日(日) 大正大学

シンポジスト

横山和樹さん・関口明彦さん・鶴領太郎さん・矢部滋也さん

グループワーク担当: 荒井浩道さん・濱田由紀さん
コーディネーター: 真嶋栄さん・相川章子

1

ピアスタッフの価値と役割を考える研究会 メンバー紹介(五十音順)

相川章子 (聖学院大学)	西村聡彦 (日本社会事業大学大学院)
荒井浩道 (駒澤大学)	濱田由紀 (東京女子医科大学)
磯田重行 (株)リカバリーセンター)	真嶋栄 (木村病院)
鶴領太郎 (静岡福祉大学)	矢部滋也 ((一社)北海道ピアサポート協会)
佐々木理恵 (東京大学)	横山和樹 (札幌医科大学)
関口明彦 (ライフサポートMEW)	
瀬戸麻貴 (聖学院大学大学院)	

2

企画の趣旨

一昨年前(第9回)の日本ピアスタッフ協会主催の全国ピアスタッフの集いにおける分科会にて、「ピアスタッフの価値と倫理」について、皆様と共有しました。それをもとに、研究会(「ピアスタッフの価値と役割を考える研究会」)を立ち上げ、日本ピアスタッフ協会の協力のもとで、検討を重ね、ようやく12項目の「ピアスタッフが大切にしたいこと」を導き出しました。

今年度は、ピアスタッフの価値と役割を深めるために、「ピアスタッフが大切にしたいこと」について皆様のご意見をお伺い、さらにより良いものにしたと考え、この分科会を企画しました

3

タイムテーブル

13:00	開会・趣旨説明等
13:05	「ピアスタッフが大切にしたいこと」作成プロセスと解説 横山和樹さん(作成プロセス、1対等性、4存在の肯定、5当事者性) 関口明彦さん(前文、2共にいる、7権利擁護) 矢部滋也さん(3情報の開示、9ストレングス、10学び合い、11メゾ・マクロ) 鶴領太郎さん(6希望、8リカバリー、12D&I)
13:45	休憩
13:55	グループワーク
14:35	グループ発表
14:55	クロージング・閉会

4

12項目の作成プロセス

2022年	2023年
●3月 ピアスタッフの価値と役割を考える会 発足	●2月/3月 フィールドワーク ・北海道ピアサポート協会(札幌市) ・リカバリーセンター(福岡市・久留米市)
●月1回 定例ミーティング 現在までに計20回	●4月 ワークショップ(国立オリンピック記念青少年総合センター)

フィールドワーク(2023年3月1~7日
(一社)北海道ピアサポート協会・札幌市)

フィールドワーク(2023年2月2~4日
(株)リカバリーセンター・福岡市・久留米市)

ワークショップ(2023年3月31日~4月1日)



現場の視察・ピアスタッフへのインタビュー



大切にしていること語り、項目を洗い出し、むたすら議論

5

前文

- ・サービス利用者である仲間を対象化しないこと
- ・障害者権利条約 第一条 目的 この条約は、すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする。障害者には、長期的な身体的、精神的、知的又は感覚的な機能障害であって、様々な障害との相互作用により他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げ得るものを有する者を含む。
- ・Disability(障害)とImpairment(機能障害)
- ・Disability(障害)とは発展しつつある概念
- ・精神的な機能障害とはpsycho social impairments(心理社会的機能障害) ワールドビジョン
- ・Dignityを第1条の目的事項に入れて!

6

1. 対等性・相互性

◆私たちは、あなたとの対等な関係を大切にしています。

私たちは、置かれている状況が対等ではないとしても（支援者と利用者など）、人として対等な関係であることを大切にしています。そのために互いの自己開示を大切に、それぞれのペースに合わせた関係性を大切にします。

Experience

- ・専門職の支援と比べて…
- ・ピアサポートを仕事にするときに特に意識する

Discussion

- ・どのように意識する!?
- ・サポートしたいと思えば思うほど一方的なサポートになる!?

7

2 私たちは、あなたとともにいます

- ・存在の肯定 I am OK and You are OK を伝えていく。
- 共通点
- ・同じ立場に立つサバイバーです
 - ・なので似たような被差別体験があります
 - ・主治医がいて精神薬の服薬を継続しています
- 違いを探してみる
- ・例えば性別や年齢など
 - ・議論の違いを明らかにするためにある（勝ち負けではない）

8

3（経験の開示・共有・蓄積）

私たちは、あなたと人生の経験を分かち合うことを大切にしています。

私たちは、「わかりあいたい」という思いを大切にしています。あなたの経験に寄り添い、あなたが何を求めているのかに心と耳を傾け、自分の経験を開示することができます。

ポイント:

相手がおかれている境遇に対してピアスタッフはどのようにわかりあうか。経験の開示についてどう考えるか。

9

4. 存在の肯定

◆私たちは、あなたのありのままを尊重します。

あなたも私たちも、自分自身を知ることができます。たとえ病気や障害の影響で揺れ動いていても、たとえリカバリーを信じられていなくても、自身の病気や障害を受けいれることができなくても、ありのままの存在を肯定します。

Experience

- ・つらい時ほど自分を見失いがち
- ・そのようになって、受け入れてくれる仲間の存在がありがたい

Discussion

- ・“ありのまま”とは!?
- ・なにを尊重することが、存在を尊重することにつながる!?

10

5. 当事者性

◆私たちは、あなたと私たちの出発点である、困難な経験を大切にしています。

私たちは、同じような困難な経験をした立場を忘れず、わかちあうことを大切にしています。あなたの経験も、私の経験も大切にすることで互いの尊厳を大切にします。

Experience

- ・困難な経験があるからこそ、できることがある
- ・困難な経験を力に変えていきたい

Discussion

- ・同じ立場と思えない人もいるのでは!?
- ・経験を自己開示する迷いは!?

11

6 希望・創造性に満ちた未来

わたしは、あなたと共に希望を見出し、それ（希望をもつこと）を大切にします。

ピアスタッフはどんな困難があっても、あなたの未来に希望があることを信じています。私たちの一度のしかない人生を尊厳を持って生き、希望を大切にします。ピアスタッフは、すべての人の希望と創造性にあふれた人生を大切にします。

気づいたこと・考えたこと

- ・専門職は科学的根拠を意識する
- ・希望 (Hope) とニーズの違いは?
- ・未来を考えることが困難なときに創造性は発揮できる?

12

7 私たちは、あなたの権利と尊厳を奪ったり侵したりせず支持し、守り、大切にします

- ・ On an equal basis of others 新たな権利ではない
 - ・ To protect and promote the rights and dignity for the people with disability
 - ・ 権利侵害に対する法的な対処
 - 刑罰法規 告訴、告発
 - 民事訴訟による不法行為に対する損害賠償請求
 - 労働法規違反 労働審判
- 根拠として使える主なもの： 憲法、自由権規約、CRPD、労働3権

尊厳の尊重⇔侮辱や見下しや決めつけ

13

8 リカバリー・希望の再生

わたしは、あなたのリカバリーを共に信じ、歩みます。

ピアスタッフは、すべての人のリカバリーを信じますが、強要しません。それぞれのペースを大切にします。ピアスタッフは互いにリカバリーの旅路について一緒に考え、共に歩み続けます。

気づいたこと・考えたこと

- ・誰もがリカバリーの旅路を歩むことができる
- ・リカバリーの体験はどのように共有する?

14

9 (ストレングス視点)

私たちは、あなたがもっている力や可能性を信じます。
私たちは、病気や障害等ではなく、あなたが持っている力や可能性、希望などの「強み」と、あなたが持っている環境の「強み」に焦点を当てます。私たちは、あなたが私のもつ弱さを補うことができると信じています。そのことで弱さは強さになり得ることを大切にします。私たちは、互いのエンパワメントを信じ、力と権利を奪いません。

1 ストレングス視点とは、個人の障害等やできないこと、欠点に着目するのではなく、その潜在能力(強み)や才能、技能、好き、性格のよい部分、関心、資源(得意、人間関係、社会資源等)などに着目し、尊重し、その力を生かした視点を言います。

ポイント:
弱さの絆は強さになり得、互いにリカバリーできるか。

15

10 (学び合い)

私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方から学び続けます。私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方や価値観から学び合い、あなたと共に成長していきます。

ポイント:
お互いの生き方や価値観以外にもどのような学び合いがあるか。



16

11 (メゾ₂・マクロ₂・変革)

私たちは、自らの経験をもって、あなたと私たちを取り巻く環境*を変革できる存在であることを信じます。

* 環境には、人、組織、サービス、地域、制度、社会等を含みます。

私たちは、私たち自らの経験をもって、権利が奪われている状況や、生きづらいと感じる環境を、リカバリー志向に変革できる存在であることを信じます。私たちは、誰もが生き生きと生きられる社会を創ることに貢献します。

2 環境のレベルのことで、ミクロ・メゾ・マクロに分けられることが多い。ミクロレベルとは支援者と利用者など個別や集団での直接支援、メソレベルとは、組織運営、地域活動など、マクロレベルは政策提言や社会活動などと分けられています。

ポイント:ピアスタッフが言葉にする勇気や当たり前を主張、変革し、リカバリー志向の人材になり得るか。

17

12 マクロ・D&I₄

わたしは、私たちが多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きる地域・社会を目指します。

ピアスタッフは、私たちすべてが、一人ひとりの多様性を認め、その多様性を尊重しあうことで、誰もが暮らしやすい地域・社会になることを信じ、目指します。

4 D&I: Diversity & Inclusion (多様性と包摂) の略。
多様な人々が地域の中で共に暮らす共生社会のこと。

気づいたこと・考えたこと

- ・目指す方向性はすべての専門職に共通している
- ・他の専門職に飲み込まれることはない?
- ・私たちの求める地域・社会とは?

18

アンケート用紙に気づいたこと
など、随時ご記入ください。

19

休憩

13:57から再開します

20

グループワーク

- ・自己紹介 5分
- ・個人ワーク 3分 付箋に書く
- ・グループで共有 20分
- ・壁に貼っていく 5分

21

グループワーク (導入)

自己紹介 (5分)

- ・呼ばれたい名前
- ・この分科会を選んだ思い
- ・(あれば) みなさんに知っておいてもらいたいこと

役割を決めてください。

- ・発表者

22

グループワーク

- ・「ピアスタッフが大切にしたいこと」（前文＋12項目）の作成プロセスと解説を受けて、各項目および全体に関してのご意見をお寄せください。
- ・個人ワーク（3分）：付箋にそれぞれの項目の番号を入れて、コメントを書いてください。
- ・グループで共有（20分）一人2分
- ・付箋をすべてホワイトボードの各項目に貼る

3
経験はみんな異なるから共有は難しい

23

グループごとに発表
1グループ3分

24

アンケート記入（3分）

- ・これまでを踏まえて、アンケートに今のあなたのご意見をご記入お願いいたします。
- ・本研究の大切なデータとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

25

お疲れ様でした。
ありがとうございました。

26

ピアスタッフが大切にしたいこと (Ver.1.2)

ピアスタッフの価値と役割に関する研究会

2023.12.5.作成

2024.1.15 修正

前文：前提となる私たちの思い

「ピアスタッフが大切にしたいこと (Ver.1.2)」は、私たちピアスタッフ（ピアサポーターも含む）が、活動するうえで大切にしたい「こころの軸」（考え方の基盤）をまとめたものです。同時にこれは、共に歩む仲間たちと交わす、私たちの約束でもあります。

ピアスタッフ（ピアサポーターを含む）とは、「自身の立場や経験を活かして、ピアサポートの感覚を大切に、同様の立場や経験のある仲間のリカバリーに寄与する仲間」¹⁾とされています。自らの経験から、リカバリーは現実には起こるということを、そして止まることのないリカバリーへの歩みがあるということを信念として、自分らしく、仲間のリカバリーを誘い、応援する伴走者でありたいと思っています。

しかしながら、現実にはそのように活動できていないピアスタッフも多くいます。

ピアスタッフとして活動する仲間は増えていくなかで、喜びと同じくらい、困りごとや葛藤について聞かれるようになりました。ピアスタッフとして、拠り所となる大切にすべき価値が必要ではないかという声がピアスタッフから挙げられました。

そこで、私たちは、「ピアスタッフが大切にしたいこと (Ver.1.2)」を12項目にまとめました。作成にあたって、私たちの前提となる立脚点、基盤とする考え方と、これらを大切にすることで生み出される「場」について掲げます。

なお、ここでの「私たち」は、ピアスタッフである「私たち」を意味します。「あなた」は、サービスの利用者である仲間であり、共にリカバリーの道を歩む仲間を意味します。

（前提となる立脚点）

私たちは少なからず、病気や障害等によって被差別体験、尊厳や力を奪われた経験などを有しているという立場を立脚点としています。このことは、障害者権利条約にある「障害者の権利と尊厳を保護し、促進する」²⁾ことを基盤とし、サービス利用者である仲間を対象化するのではなく、常に「一緒に」、「互いに」、「共に」、あることを大切に、私たちも「共に」リカバリーする仲間（ピア）であり、「相互に応援」するところにいます。

（基盤とする考え方）

私たちは、病気や障害等、大きな困難を経験していることで、支援の受け手としてのみ規定されがちでした。これからは「客体」ではなく、共に「権利の主体」であることを基盤とします。つまり、すべての人が支援を必要とすることがあり、すべての人が誰かの力になることができるということのうえで活動します。

（創り出される心地よい「場」）

「ピアスタッフとして大切にしたいこと (Ver.1.2)」を実践することで、心地よい「場」が創り出され、「ピアサポートの感覚」を味わうことができます。ピアサポートによって創り出される「場」は、一人ひとりのエンパワメントやリカバリーのきっかけとなります。

リカバリー志向へ変革していくうえで不可欠な存在として活躍するために、私たちはここに挙げる12項目を大切にしていきます。

(参考資料)

ピアスタッフが大切にしたいこと

前文(省略)

- | | | |
|----|-----------------|--|
| 1 | (対等性・相互性) | 私たちは、あなたとの対等な関係を大切にしています。 |
| 2 | (共にいること・存在の肯定) | 私たちは、あなたと共にいます。 |
| 3 | (経験の開示・共有・蓄積) | 私たちは、あなたと人生の経験を分かち合うことを大切にしています。 |
| 4 | (存在の肯定) | 私たちは、ありのままを尊重します。 |
| 5 | (当事者性) | 私たちは、あなたと私たちの出発点である、困難な経験を大切にしています。 |
| 6 | (希望・創造性に満ちた未来) | 私たちは、あなたと共に希望を見出し、希望を持つことを大切にします。 |
| 7 | (権利擁護) | 私たちは、あなたの権利と尊厳を奪ったり侵したりせずに支持し、守り、大切にします。 |
| 8 | (リカバリー・希望の再生) | 私たちは、共にリカバリーを信じ、歩みます。 |
| 9 | (ストレングス視点) | 私たちは、あなたがもっている力や可能性を信じます。 |
| 10 | (学び合い) | 私たちは、あなたとの出会いを大切にし、お互いの生き方から学び続けます。 |
| 11 | (メゾ*3・マクロ*3・変革) | <p>私たちは、自らの経験をもって、あなたと私たちを取り巻く環境*を変革できる存在であることを信じます。</p> <p>* 環境には、人、組織、サービス、地域、制度、社会等を含みます。</p> |
| 12 | (マクロ・D&I*4) | 私たちは、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きる地域・社会を目指します。 |

【注釈】

- ¹ 本定義は、相川の定義（相川章子「ピアサポート/ピアスタッフの歴史的展開と発展可能性」, 精神障害とリハビリテーション, 26(2), 126-133, 2022）に、加藤の「ピアサポートの感覚を大切に」（加藤伸輔「ピアサポートの感覚を大切に」, 「ピアスタッフが働くためのヒント」 星和書店, p14-18, 2019,）を加え、改編したものである。
- ² 障害者権利条約 第一条 目的: この条約は、すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする。障害者には、長期的な身体的、精神的、知的又は感覚的な機能障害であって、様々な障壁との相互作用により他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げ得るものを有する者を含む。
- ³ ストレngths視点とは、個人の障害等やできないこと、欠点に着目するのではなく、その潜在能力（意欲、才能、技能、好み、性格の良い部分、願望）や、環境（資産、人間関係、社会資源等）などに着目し、尊重し、その力を生かした視点を言います
- ⁴ 環境のレベルのことで、マイクロ・メゾ・マクロに分けられることが多い。マイクロレベルとは支援者と利用者など個別や集団での直接支援、メゾレベルとは、組織運営、地域活動など、マクロレベルは政策提言や社会活動などと分けられています。
- ⁵ D&Iとは、Diversity & Inclusion（多様性と包摂）の略。多様な人々が地域の中で共に暮らす共生社会のこと。

【用語の定義】

ピアスタッフ（ピアサポーターを含む）：自身の経験や立場を活かして、ピアサポートの感覚を大切にして、同様の経験や立場の仲間のリカバリーに寄与する仲間。事業所等と雇用契約を締結し、報酬を得ている者や、雇用契約等は締結せずに活動している者（例：無償でピアサポートグループのファシリテーターを行っていたり、依頼を受けて講演会等を行っているなど）

ピアサポート：同様の経験や立場のある対等な仲間同士の支え合いの営みのすべて。

リカバリー：大きな困難（病気や障害等）がありながら、自らの夢や希望、目指す暮らしに向けて歩んでいる過程。その旅路。

本紙は「ピアスタッフの価値と役割に関する研究会」が日本ピアスタッフ協会と協力してまとめました。研究会のディスカッション、ワークショップで得られたものを、さらに研究会内でディスカッションを重ねてまとめていきました。加えて、ピアスタッフ運営事業所2カ所でのフィールドリサーチ、ピアスタッフへのインタビュー調査を実施し、これらを踏まえて12項目にまとめました。

【ピアスタッフの価値と役割を考える研究会】（五十音順）

相川章子（聖学院大学）・荒井浩道（駒澤大学）・磯田重行（(株)リカバリーセンター）・鶴領太郎（静岡福祉大学）・佐々木理恵（東京大学）・関口明彦（ライフサポート MEW）・瀬戸麻貴（聖学院大学大学院）・西村聡彦（日本社会事業大学大学院）・濱田由紀（東京女子医科大学）・眞嶋栄（木村病院）・矢部滋也（(一社)北海道ピアサポート協会）・横山和樹（札幌医科大学）

【ホームページのご案内】

ピアスタッフの価値と役割を考える研究会 ホームページ



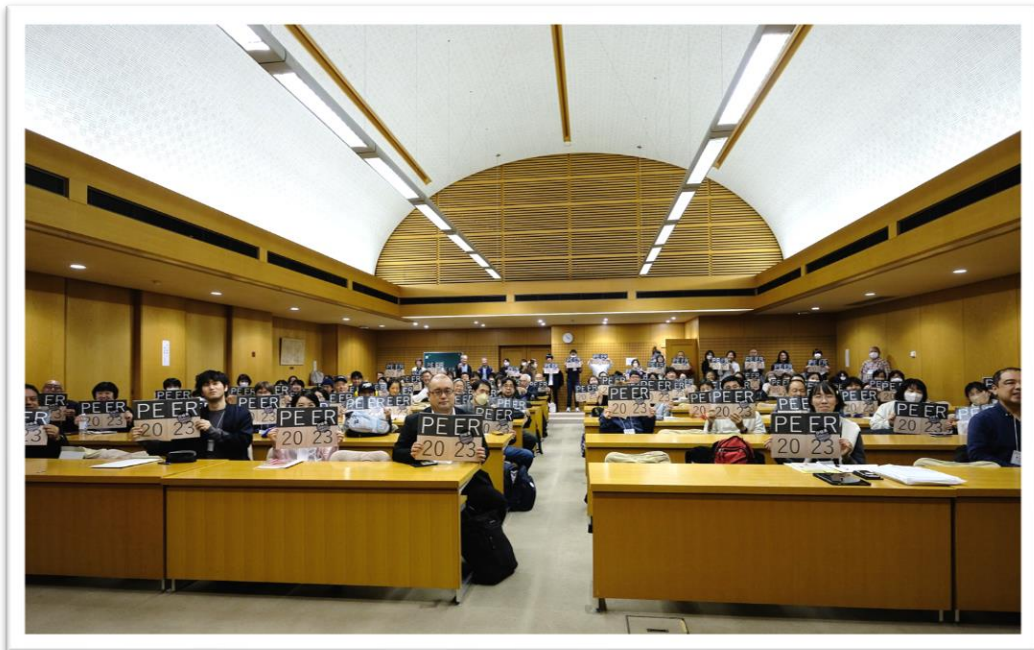
<https://sites.google.com/view/peer-values-roles>

～ご寄付のお礼～



第11回全国ピアスタッフの集いの実施において、沢山の方からご寄付を頂戴いたしました。
主に、会場費や運営経費として使用させて頂きました。
みなさまからのご寄付に、改めて心よりお礼申し上げます。

ご寄付金額合計	¥111,500
---------	----------



PEER
協会

日本ピアスタッフ協会

WEBサイト	https://peersociety.jimdofree.com/
Facebook	https://www.facebook.com/peerstaffkyoukai/
X(旧Twitter)	https://twitter.com/peersociety_
ピアスタッフの集いFacebook	https://www.facebook.com/peer.conference/

